

682

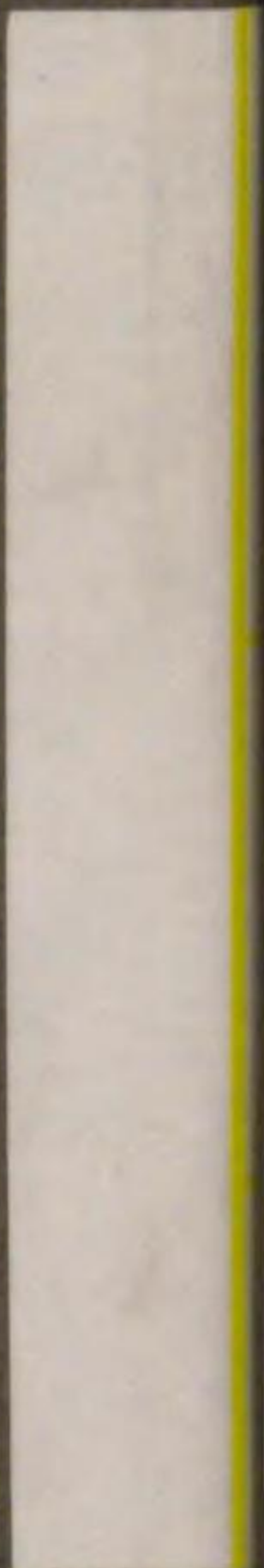
683-63



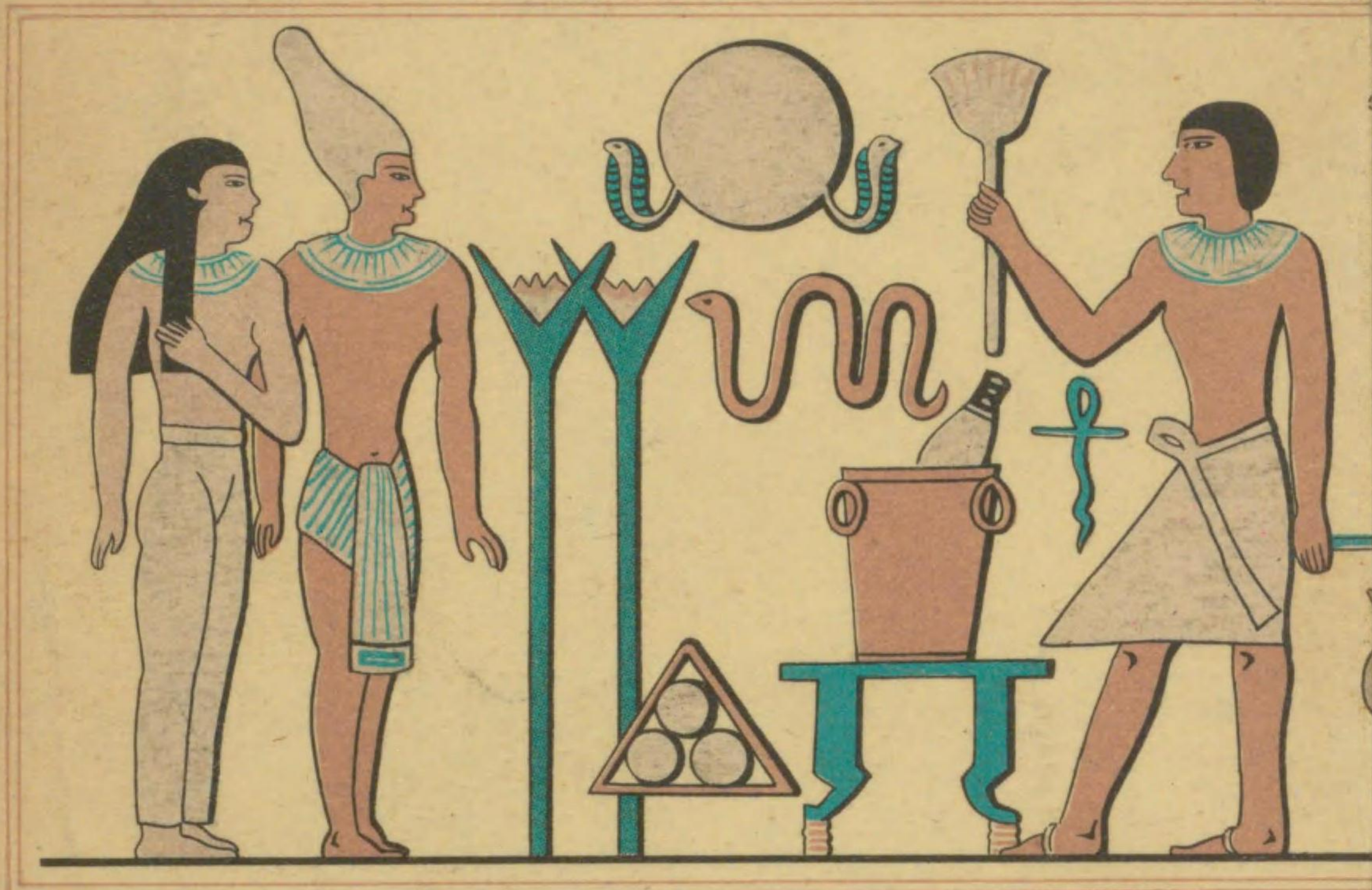
口 複写

埃及見物

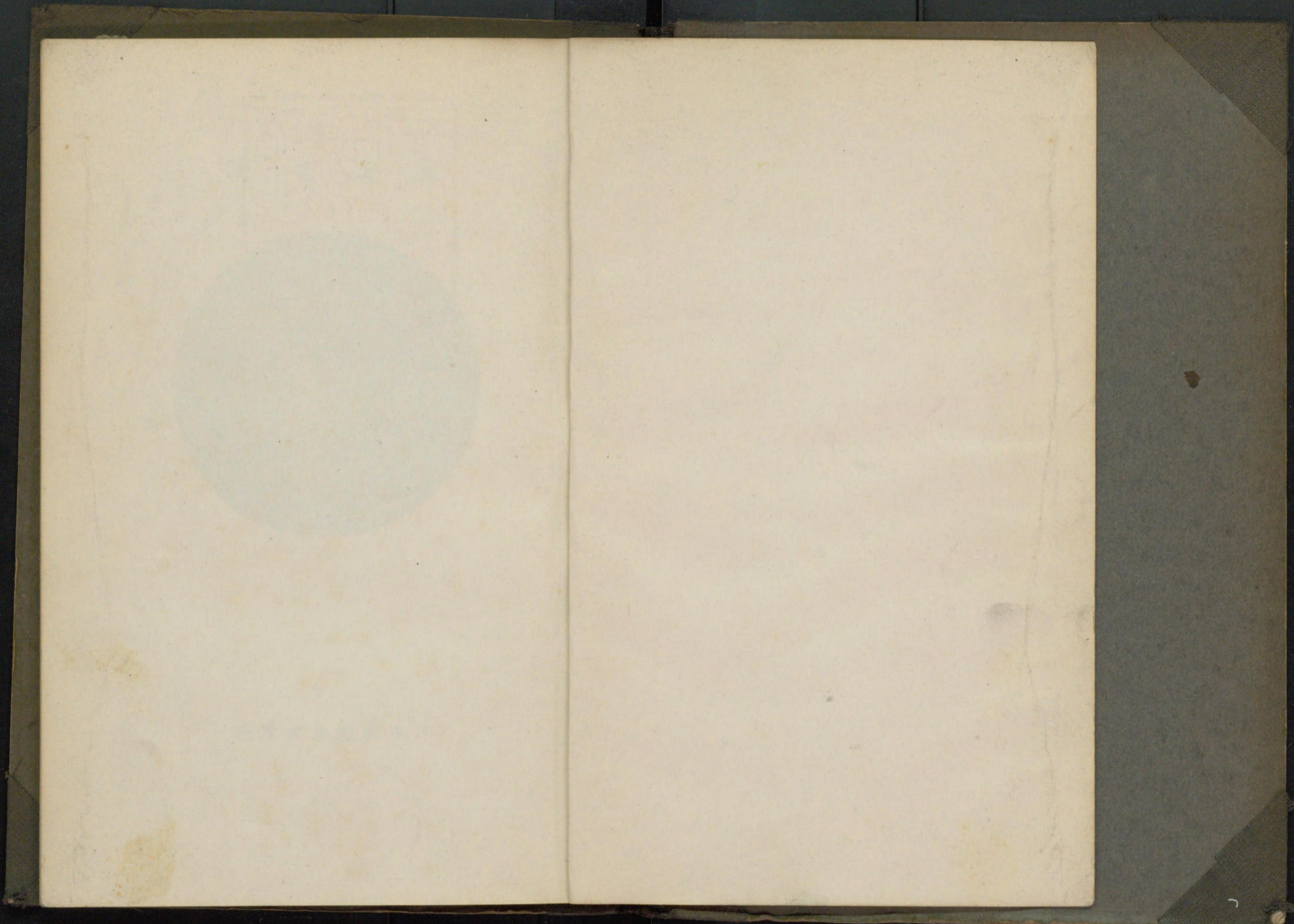
日永郵船株式会社編



埃及及見物



日本郵船株式會社



埃及及西貢
物見

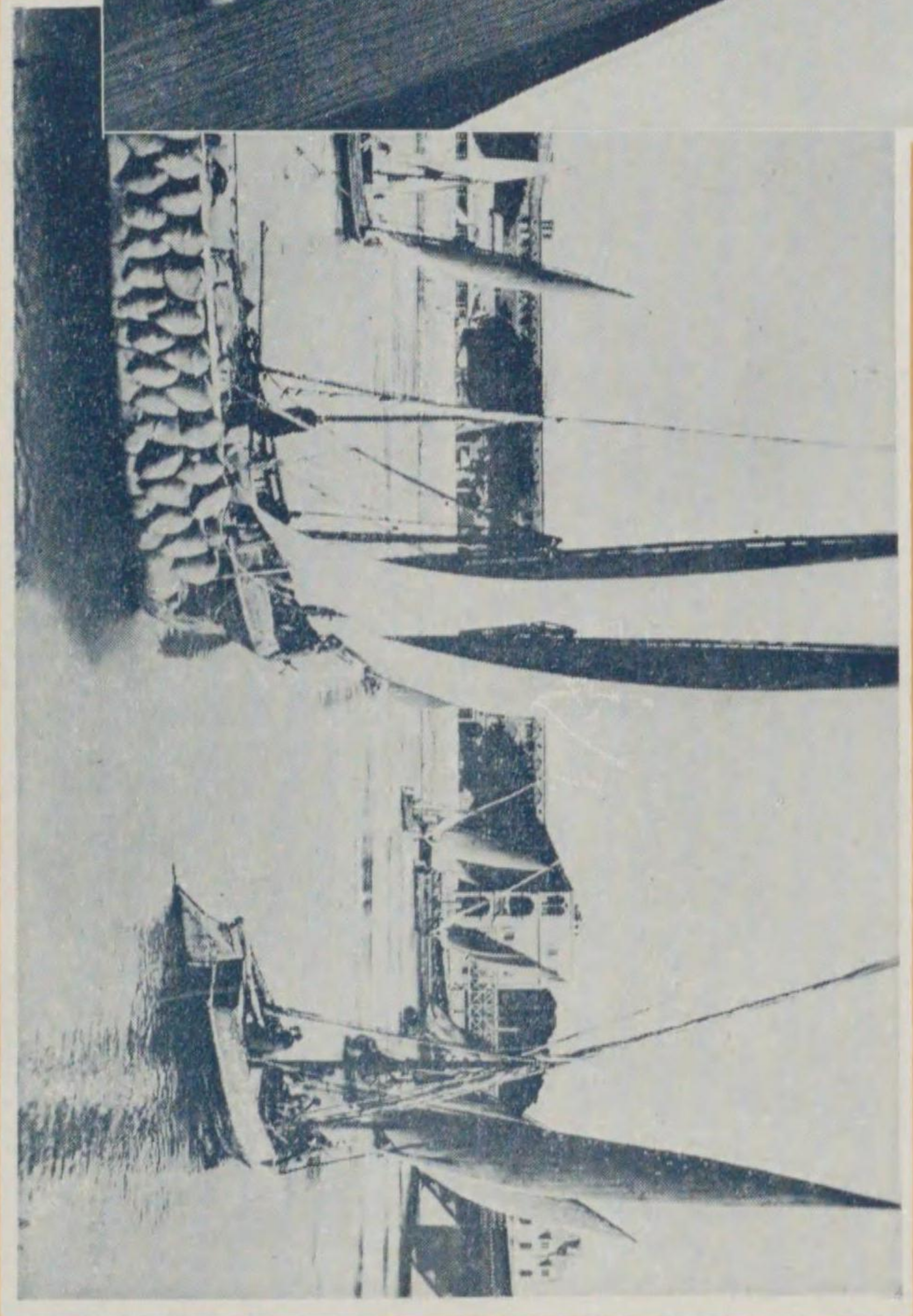


日本郵船株式會社

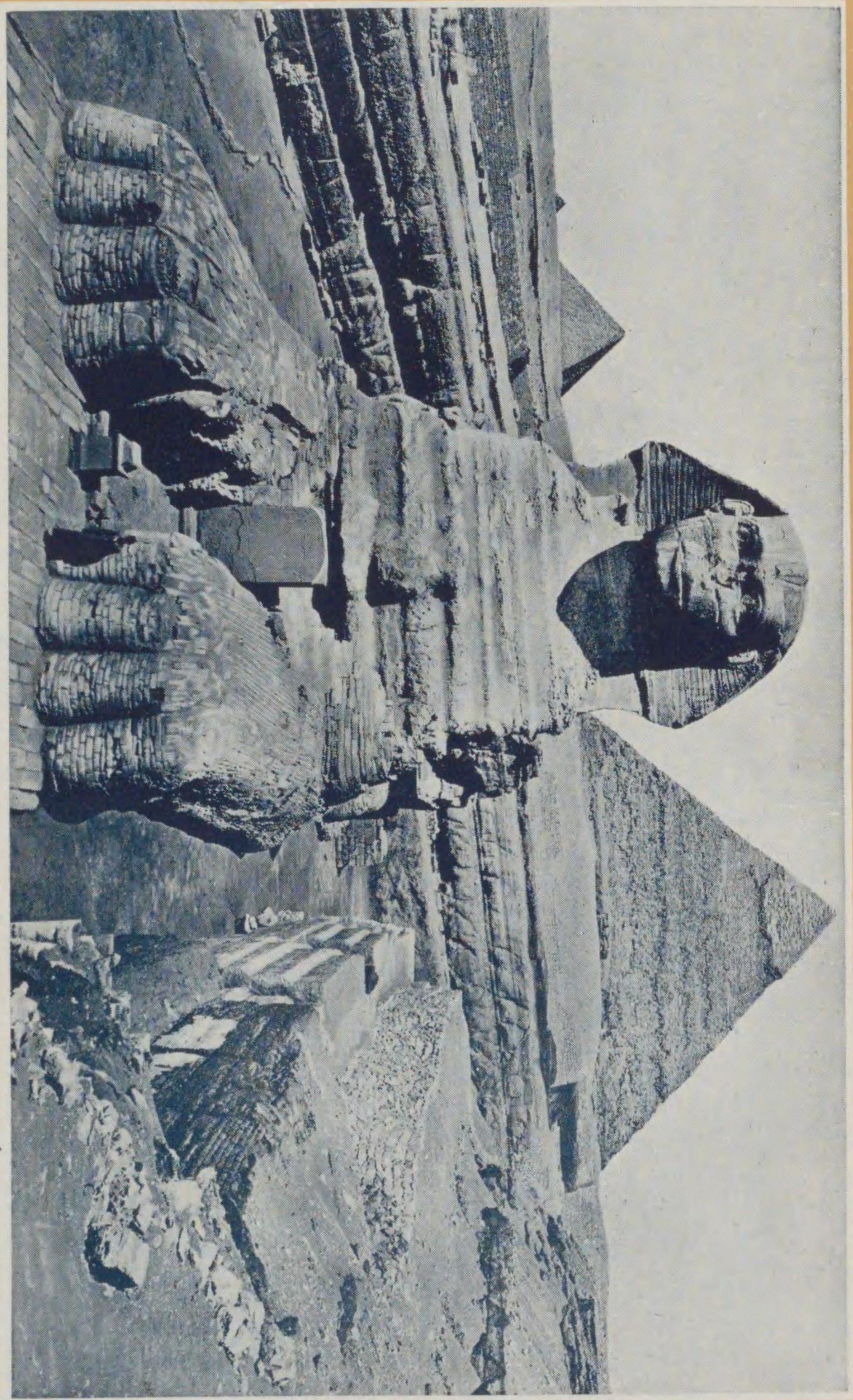




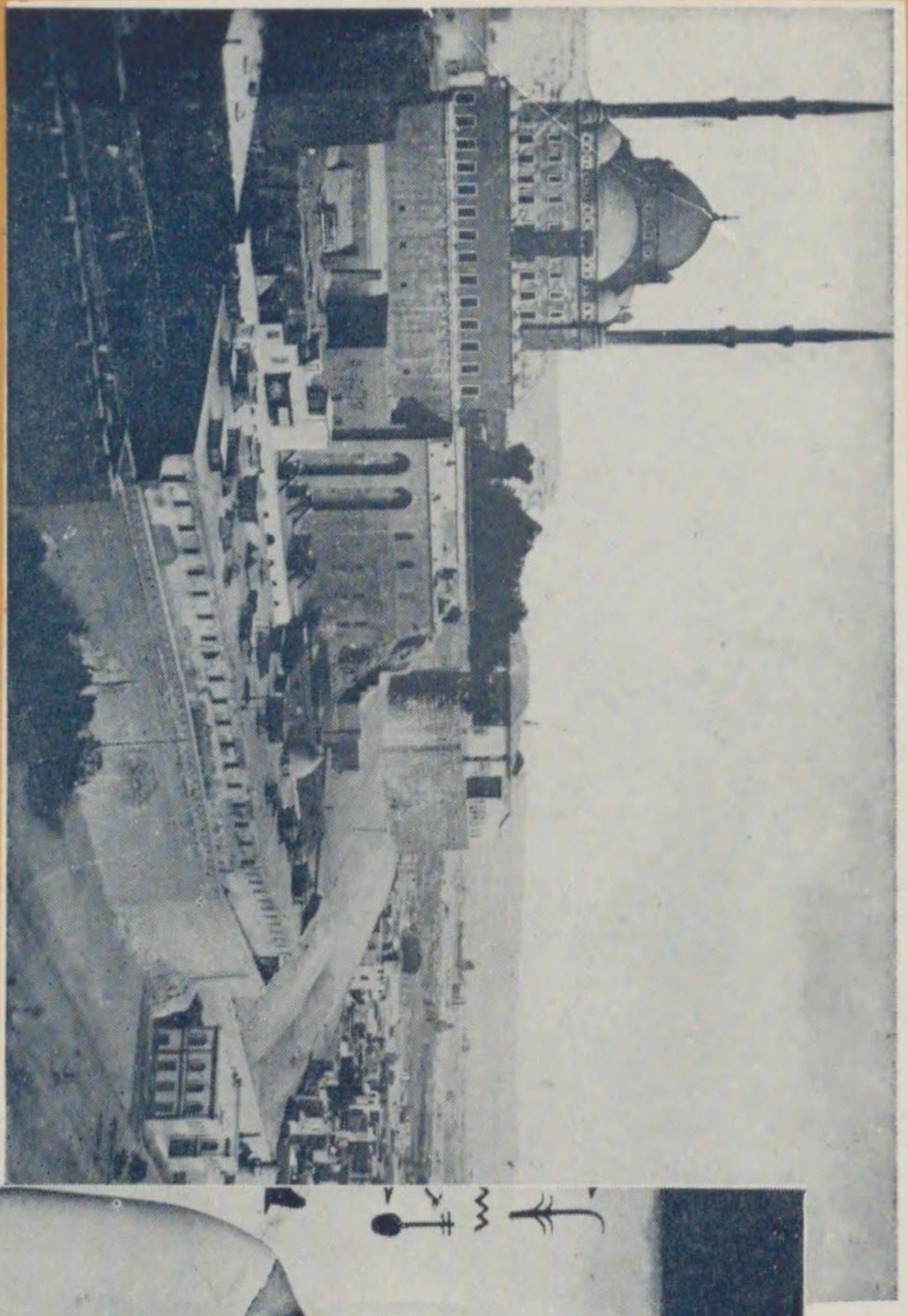
埃及風俗



ナイル河



塔字金大ヒヌクソイフス



カ
イ
ロ
の
城
塞



王
如
ノ
ツ
レ
ト
の
像

623-6

アントニー『あんな女に逢はなければよかつた。』
エノバーバス『いや、若しそうだと、貴下は不思議な一名物を見ずじまひになさるところだつたのだ。あれを拜まないで歸つちや旅をした甲斐がないといふものです。』

坪内博士譯「アントニーとクレオパトラ」より

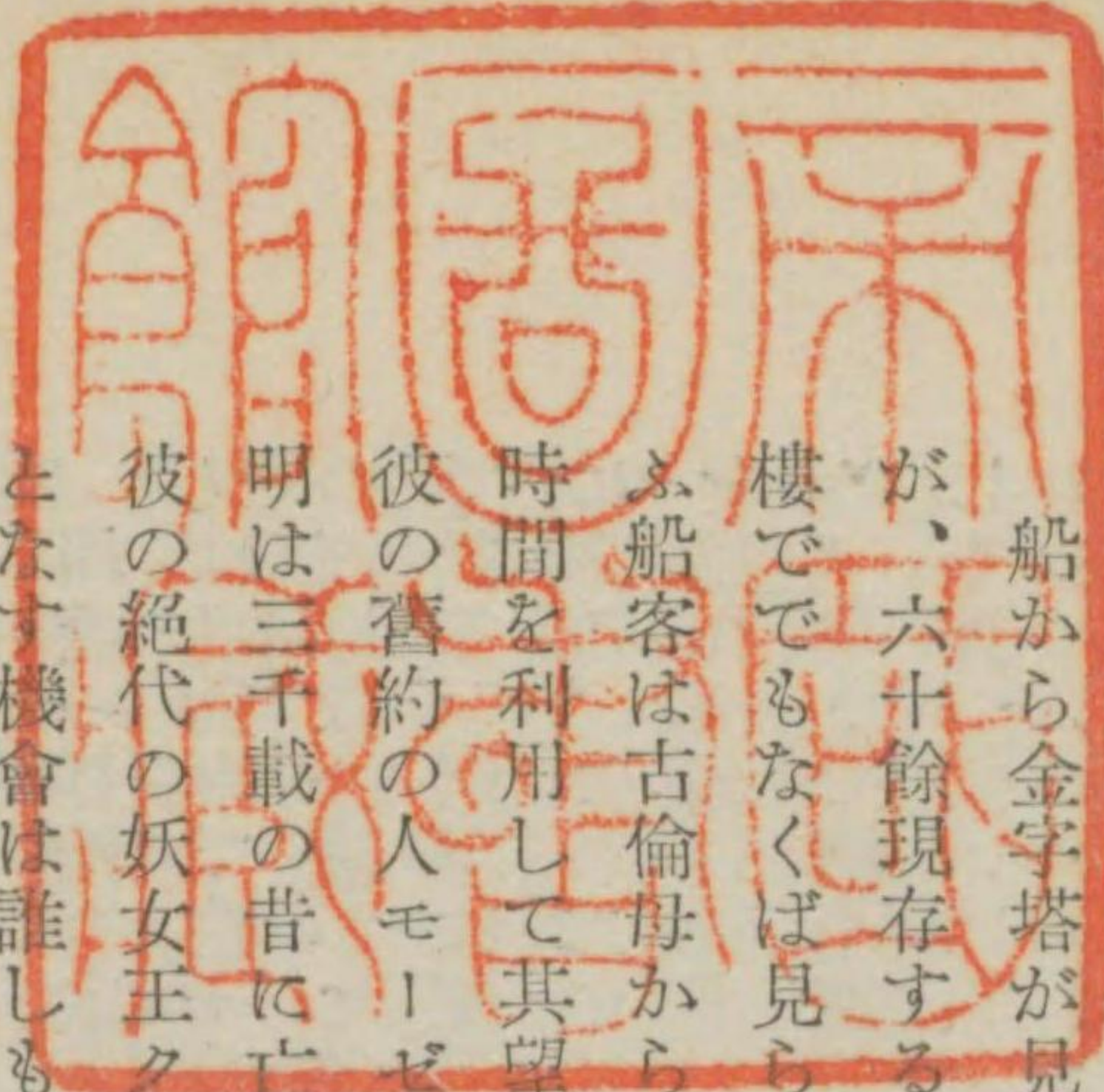
『カイロを見ない者は世界を見ない者である。その土は黄金、そのナイルは不思議、その女は黒眼の天女、その家は宮殿、その空氣は柔く、その匂は伽羅にも優り人の心を陽氣にする。さもあるべき管である、カイロこそは世界の母であるのだから。』

「アラビヤ物語」より

埃及見物

船から金字塔が見えないかとはスエズ運河通過中の船客から時々發せらるる質問であるが、六十餘現存するピラミッドの中最も近いのでも百哩餘も距つた此方からは素より蜃氣樓でもなくば見らるる譯がない。然しながらこの世界七不思議の一つを是非見たいと思ふ船客は古倫母から蘇士に着いた時上陸し、船が運河を通過して坡西土を出帆するまでの時間を利用して其望を果たす事が出来るのである。凡そ一晝夜の慌しい旅ではあるが或は彼の舊約の人モーゼがイスライル民族救済の爲めに苦闘した大活劇の跡を偲び、或は其文明は三千載の昔に亡びても其流れは今尚滔々として盡きぬナイルの河に我姿を映し、或は彼の絶代の妖女王クレオパトラを生むだこの光の國に親しく我足跡を印して一生思出の種となす機會は誰しも逃がし難いところであらう。殊に最近埃及發掘家カーナヴォン伯のツタンカーメン王の墳塋發見によつて世界の視聽を集め、漫遊客が踵を接しつつかある埃及を見なくてはエノバールバスならずとも旅をして甲斐がないといはずばなるまい。

埃及見物と云つても短時間の事であるからカイロ竝に其附近だけの見物で満足しなければ



ばならぬ。又單なる觀光としてはカイロと其附近を見れば先づ十分であらう。勿論其所まで往復沿道の風物で車窓に映するもの何一つとして東方旅客の眼に珍しからぬはない。況んや歴史眼を開いて想を遠く古代に馳せたならば其興趣や蓋し盡くる所がないであらう。

却説一月餘吾家と懷むだ船に暫しの別れを告げてポート・テウフキツクに上陸し、汽車又は自動車で約十分の後に蘇士に着く。其昔歐亞貿易の仲繼市場として殷盛を極めた當時の面影は今纔かに其市の門に遺されてゐる。それを一瞥して愈々カイロ行の汽車に乗るのである。汽車は運河の西岸に沿ふて北上し程なくスモールピター、グレートピターの湖岸に來る。この二湖は所謂溫帶性沙漠特有の鹹湖で其中心をスエズ運河が貫いてゐる。左窓を見れば滿目荒寥たる沙漠の中に所々棗椰子が群生し其間を駱駝がのそり／＼歩いてゐる。今まで繪や寫眞で眼に慣れた沙漠獨特の景色も今日のあたり其實景に接しては更に新しく且つ強い印象を受けずには居られない。かくてモーゼや耶蘇やマホメットや奈翁などの在りし當時のこのあたりの様を想ひ浮べながら、スエズを出でてから約三時間でイスメリア驛に着くのである。イスメリアはイスメリア湖畔にある人口約一萬五千の小邑であるが運河會社の本部があり運河地帯の要津である。カイロ行旅客は此所で列車を乗換へなけ

ればならぬ。鐵路はここから運河を離れて眞直に西に向つて走る。イスメリアから四、五の小驛を數ふる約一時間の沿道は四顧茫莫たる沙漠であつて、一木一草を見ることなく沙と空とは天涯に連り大波のうねりの如く限りなく唯熱風の吹曝すに委してゐる。而して汽車の疾走に連れて濛々たる沙塵が舞ひ上り車内を襲ひ、旅客は初めて沙漠旅行に伴ふ苦痛の一端を體驗するであらう。然しながらザガジク驛に近づく頃から所謂ナイル河デルタの豐饒地帯に入りて、四圍の風光一變し沿線には麥や棉花の畑が連つてゐる。又到る處に椰子棗樹が繁茂してゐる。其實は砂糖漬となつて世界市場に現れてゐる事は人の知るところである。埃及政府は此棗樹一本に對して年額十五ピアストルの税金を課し其財源となしてゐる。ガジク驛は次驛バンハーと共に棉花の集散地であつて、其品質に於て世界に冠絶する所謂埃及棉は専ら此地方に産するものである。千九百三十三年度アレキサンドリア港其他から輸出された棉花の價格は二千百三十八萬埃及磅に達してゐる。

バンハー驛を出ると間もなく吾々がこの旅行の最大目標であるギザの金字塔が巍然として紺青の空に立つてゐるのを遙に望む事が出来る。其雄大なる光景を車窓から飽かず眺めながらスエズ發後約五時間半で愈々カイロに着くのである。即ち朝七時の汽車でスエズを

立てば午後一時カイロに着く事が出来る。驛から自動車にてホテルに到り先づ車中で浴びた沙塵を拂ひ晝食を喫したる後愈々見物に出掛けるのである。又蘇士から午後五時二十分發の汽車に乗れば午後十時三十分カイロに着くが幸に月明に會し徹宵を厭はぬ旅客は直に自動車を驅つて夜のピラミッド見物をしたならばいと興深きものがあらう。見物の範圍や順路は船の蘇士着と坡西土出帆時の都合次第で適宜按配を要するものとして遊覽案内を記す事にする。

先づ第一にギザの大金字塔へと急ぐ吾々の自動車はナイル河の長橋を渡る。音に聞えたナイル河も途中灌漑用に其水量を減らさるる爲めか、揚子江口を見た吾々の眼には餘り大きくは映じない。又その名にふさはしからぬ濁流である（河名ニールは亞刺比亞語で青色を意味する。）然しながら今日のあたりこの流に接して自然に起さるる吾人の感興は此水が生んだ偉大なる文化である。若しナイルが無かつたならば埃及は生れなかつたであらう。その毎年一定時の氾濫の大小高低が直に耕作に影響し其歳の豊凶を左右し、又これから曆法も天文学も幾何學も發明された。實にナイル河は古來埃及に於ける生活の源泉である。埃及人がこれを神靈視し又自らを呼んでナイルの兒と云ふも道理ある事である。更にこの

流に絡る幾多の物語を追想したならば其興趣や蓋し止る所を知らないであらう。クレオパトラはアントニーとここに舟を泛べて長夜の歡樂に耽つたのである。嬰兒のモーゼはこの河の蘆間に隠まはれてパロの虐殺を免れたのである。嗚呼悠久極りなきこの流れは今後果して如何なる新文化を創造し又如何なる人生劇の舞臺となるであらうか。

吾々は此靈河の古往今來に様々の想を馳せながらアカシヤ並木の下坦々たる街路を快走し、やがてリビヤ沙漠の一端に達し自動車を捨てて駱駝背上の人となる。而して目ざすピラミッドは早や間近から三箇の塔影を靜かに沙上に投げてゐるのである。

抑も埃及に現存するピラミッドは總て六十七箇に達するのであるが、吾々が今觀むとする所謂ギザの金字塔は高さ四百八十一呎餘面積十三エーカー（約五町二反）を占め金字塔中の最高最大のもので、第四王朝のクフ王によつて建造されたものである。其傍にあるクフ王の子カフラ王の金字塔亦之れに次ぐべき大きさである。猶其附近にあるカフラ王の子メンカフラ王の金字塔は其規模が遙に小さい。

さて金字塔建設の動機理由に關しては古來多種多様の説が行はれた。或は天文臺なりとし或は穀倉なりとし或は寶庫なりとし或はノアの洪水の遺物なりと唱ふる者さへあつた。

而して帝王の墳墓なりと云ふヘロドタスの説は後世學者の研究によつて始めて確證さるるに至つたのである。古代埃及人の奉じた宗教は一種の轉生輪廻説即ち一度肉體を離れた靈魂は再び身體に復歸するものと信じた結果、肉體の保存方法として木乃伊術が案出され更に又宏大なる墳墓建造が考案された。かくて埃及人は其全生涯を擧げて自己の墳墓建造の爲めに孜々營々として努力し、貴族富豪の徒は其地位と財力とを利用して互に其墳墓の雄大と善美とを競ふと共に墓場荒し豫防の爲めに精妙なる工夫を凝し、終に巍然たる金字塔の出現を見るに至つたのである。吾々が今觀覽せんとする大金字塔は紀元前約四千年當時のクウフ王が建設せるもので其王位に即くや慣例に依り直に其建造に着手した。而してこれに要した労働者の數と建築費が幾許であつたか、傳ふるところによると三十萬の壯丁が徵發され、十萬人づつ三組に分ち三箇月交代に勞役を課し、休んでゐる二組の者は勞役に服してゐる一組の者の飲食を供給する義務を負はせられ、かくして竣工に五十五箇年を要したと云はれてゐる。建築の總經費につきても亦記録なく、其推定は困難であるがヘロドタスの曰ふところに據れば彼が在世當時迄金字塔の臺石の表面に刻んであつた碑文中に労働者が消費した大根、玉葱等の價千六百タレンツと記してあつたと云ふ事である。千六

百タレンツは凡そ四百萬圓に當る。此莫大なる野菜代から推して見ても、其總費用を想像し得るに難くない。而してこれが爲めに、如何に苛斂誅求が行はれたかも亦想像に餘りあるのである。要するに金字塔は帝王が民の膏血を絞つて、其血と汗とで築き上げたもの以外ならない。而して或人の計算に據ると、今日若し此金字塔と同形のもの建造しようとなると、最新式の機械を利用し毎日一千人の人夫を使つても、猶且百年の歲月を要すると云ふ事である。

金字塔の建築材料は主として赤花崗岩と石灰石とが使用されてゐる。其産地は上埃及のシイーニーで七百哩の遠隔の地から、ナイルの水運を利用して遙々運搬し來つたものである。而してこの尨大なる大石塊を、如何なる方法で積み上げたのか全く不明で、古來色々の臆説がある。石塊の數は凡そ三百二十萬あつて、平均重量は二噸半に達すると云はれてゐる。其初め石の合せ目はモルターで密着し、其表面は全部光澤ある石で張りつめてあつたから、これに日光が映射する時は燦然として非常な美觀を呈したさうである。然るにこの包装石は、其後回々教徒の爲めに寺院建築等の材料として剝奪され、今日見るが如き累累たる石塊を露出するに至つた。

金字塔の驚異は嘗に其外形の尨大さのみに止らない。其内部に於ける不思議な設計に更により多くの興味を唆られるのである。金字塔の内部は實に一種の迷路である。第一に其入口が解り難い謎であつた。これ前にも述べた通り、不逞の闖入者を防遏せん爲めに故意に設計されたのは云ふまでもない。之れが爲めに近年迄金字塔建設の目的が不明とされたのである。更に内部に入ると、萬一の闖入者を許く囿の室等が設けてあつて、容易に眞の帝王の間に近づき得ない様に装置されてゐる。案内者に導かれて所謂帝王の間に入ると、中は宛然一大巖窟の様であるが四壁は全部光澤ある花崗岩で張り詰め、又天井から塔の表面まで穴を通じて換氣法が講じてある。而して片隅に所謂クウフ王の石棺が横はつてゐるが蓋もなく中は空つぽである。例の墓場荒しの爲めに掠奪され、王の木乃伊も亦持出されたものと想像されてゐる。然しながら或人の想像の様に、この室も亦例の囿の室で眞の帝王の間は未だ発見されず、王の木乃伊は其中で安らかな眠に耽り、魂の蘇生の日を待つてゐるのではなからうか。

塔内の探検も興味が少なくないが、塔を登攀する事は更に愉快である。時間の都合で兩者併せて試み難い旅客に對しては寧ろ後者を推奨したい。二人の案内者に左右の手を取られ

一人の案内者に後から押されて石階をよぢ登り絶頂に達するや、脚下に展開する下埃及のパノラマに思はず快哉を叫ばずにはゐられない。脚下に巨頭を擡げてゐる人面獅子像や大小の金字塔、銀の帯の様なナイル河、それに沿ふて群生する棗椰子、遙に望むカイロ府の市街、一望遠く天に連るリビアの大沙漠等、其雄大の眺めは蓋し終生忘れ得ぬ印象を残すであらう。

この金字塔の傍にスフィンクス即ち人面獅子像がある。このスフィンクスは何時何人によつて作られたものか不明であるが、紀元前凡そ四千年の昔既に存在した事は考古學者の研究によつて確められてゐる。又それが古代埃及人の崇拜した日の神ハルマチスの像であり而して國王はハルマチスの地上に具現したものとされてゐたから、スフィンクスはつまりこれを作つた國王自身の像である事も亦多くの學者の一致せる意見である。一説によれば其人首は智徳を、又其獸身は體力を表徴して國王の絶大なる偉力を具へた事を示したものであるとも云はれてゐる。建立以來幾度か砂中に埋没したものゝ如く、紀元前千四百五十年頃當時の國王トスマス四世は靈夢に感じてこれを發掘したと云ふ記録が遺されてゐる。又近代に於ては、千八百八十六年當時の埃及博物館長マスペロ博士が其埋没されてゐた部

分を開掘し、千九百二十五年より二十六年の間にはイー・バライゼ氏が大々的に發掘修理を施して以て今日に至り、爲めに吾人は今其全像を見得るのである。像の長さ前肢の先端より尾端まで百八十七呎、高さは七十呎あつて、一箇の巨大なる天然の岩石に其彫刻を施したものである。建設當時頭上に或裝飾があり、頭面は朱色に塗つてあつたのであるが、現時は其痕跡をも留めない。又其鼻に當る部分其他がかけてゐるのは、マメリユツク土豪が射撃の標的にしたからである。而して其遠くを凝視してゐる眼差と、其微笑を含む口附とは、恰も永遠に解き得られない人生の謎を象徴してゐるが如くに見えるのである。

吾々はこれから踵を轉じて、其巨大な圓屋根と尖塔でカイロの街に特有の景觀を與へてゐる回々教寺院の二三に詣でなければならぬ。數あるモスクの中でもサルタン・ハサンのそれは最も代表的なもので、其結構の岩壘と其規模の宏壯な事はギザの金字塔やテベスの大伽藍を建てた太古埃及王が後裔の營造物たるを辱しめぬものと云ふべきである。建立者は第十四世紀中葉にサルタンの位にあつたハサンであるが、傳説によれば彼は其複製を禁ずる爲めにとて竣工後其建築技師の手を切斷したと云はれてゐる。建築材料の石は全部ピラミッドから崩し取つたものである。サラセン建築の特徴として堂宇内外裝飾の素淡なる

此モスクに於て、回々教徒等の莊嚴熱烈な禮拜を見る者は無慮三億の信徒を持つ回々教の神祕的威力を今更に感嘆せずにはゐられないであらう。

此モスクの東南に近く有名な城寨がある。これは第十二世紀の初頃埃及の統治者であつたサラデンの築造したもので、完成までに三十年を要し其材料も亦ギザのピラミッドから剝ぎ取つた石である。爾來數百年の間此城寨は其城主を中心として様々な悲劇を生むのである。現埃及王朝の始祖であるモハメッド・アリが千八百十一年マメリユツク族酋長等四百七十餘人を騙討にしたのも此所である。マメリユツク族は當時埃及の實權を握り慄悍無比駕馭すべからざる土豪であつたが、太守アリ土廷の意を受けて其勦滅を企て、一日事に托して其酋長等四百七十餘人を城中に招き、左右懸壁狹隘の通路に於て夾撃し、一舉にして之れを盡殺し、其免るるを得たるは馬を躍らして城壁を越え馬死し己れのみ僅かに免れた一人に過ぎなかつたと傳へられ、マメリユツク族の馬術に驚嘆すべき長技を持つてゐた事が同時に語草となつてゐる。

此城寨内にモハメッド・アリの建立に係る雪花石膏で張りつめた莊麗なモスクがあつて、其中に彼の遺骸が葬つてある。埃及中興の雄主モハメッド・アリの名は我國は勿論歐洲諸

國に於ても餘り重んぜられないが、其人物と功業は優に佛國のナポレオン、普國のフレデリック、米國のワシントンにも比肩し得べきものがある。彼は千七百六十九年希臘の一小市に於て巡査の子に生れ、幼にして孤兒となり市長に養はれたりしが、奈翁の埃及攻略に對し、土耳其の援兵を希臘に求むるに應じて埃及に赴き佛軍と戰つて大に兵術を學び、後屢々兵亂を鎮定して土氏の信望を博し、遂に土廷より埃及太守に封ぜらるるに至つた。而して彼は先づ從來埃及の實權を有し土廷の命を奉じなかつた慥悍の土豪マメリユツク族を勦滅し、又千八百二十三年希臘が獨立の兵を擧げて土耳其に反くに當つて、土廷の請を容れて其長子イブラヒムを將として海陸に援兵を出し、大に英佛露希の同盟軍を惱した。而して後土廷と確執を生ずるに至り、前後二回に互つて土軍と戰を交へ大に之れを破り、將に埃及獨立の志を遂げんとしたが、英露佛列強の干渉を招き、終に千八百四十年の倫敦會議となり、アリの埃及の世襲的太守たる事を認められたが、埃及は名義上土耳其の藩屬國たる事を更めて盟約せざるを得なかつた。且又千八百二十九年來、北はクリート島より南はアデンに互り攻略擴張して領地の半を失ふに至つた。

モハメツド・アリは智勇無比の大將軍であつたばかりでなく又實に偉大なる政治家であ

つた。海陸軍は勿論國民教育、租税法、殖産興業、財政整理、貿易國有等彼が四十年間に施設經營した治績は洵に目醒しいものがあつた。斯くて彼は名實相伴ふ大埃及帝國建設の礎を其子孫に遺して、千八百四十九年歴山港の離宮に八十年の光彩ある生涯を終へたのである。然るに彼没後不幸にして其遺業を紹復發揚する明君賢臣に乏しく、埃及の國政は日を逐ふて弛廢し、國運代を重ねて衰頽し、財政紊亂の極國家的破産に陥り、終に屢々英佛諸國から武力干渉の侮を受くるに至つたのである。而して歐洲大戰は偶々埃及に幸し、アリより九代目の總督で、アリの曾孫に當るファド第一世に至つて漸く獨立國の名目を獲得した。アリの遺骸が靜かに眠つてゐる此寺院を弔ふ者はそぞろに近代埃及興亡の跡を偲び感慨之れを久うするものであらう。

坡西土向發車まで尙多少の時間があつたなら、吾々は更に自動車之急がせて舊カイロを見物し、又は埃及博物館を一瞥して見たい。

現在埃及の首府であるカイロは中世以降の都市であつて、今僅かに其廢墟を沙漠の中に現してゐるメムフニスやヘリオポリス等の古都市に比ぶれば其年代は甚だ若い。随つて今日吾人が多大の興味を感じてゐる古代埃及とは歴史的に殆ど何等の交渉が無いとも云へ

る。即ちカイロ市は第十一世紀の末葉當時埃及の征服者であつた亞刺比亞將軍ゴアの創建に係るもので、起工の當日恰も衝に當つた火星が燦然たる赤光を放てるに因んで直に新都に命名した。蓋し亞刺比亞語カイロは火星又勝利の意味である。而して舊カイロと呼ぶ部分は現カイロ府の一部を成す南端の一區であつて、サラセン帝國時代第七世紀の中葉回々教主オマーの爲めに其將軍アムルの創建したもので其當時フスタートと呼ばれた。數年前から其廢墟を發掘して考古學上の研究が續けられてゐる。而して此所には回々教徒侵略以前に建立されたアブ・セルゲと呼ぶ古刹があつて、其土窖は幼時キリストがヘロドの難を避けた時に聖母と共に一箇月餘隠れ住むた所であると傳へられてゐる。又其近くにはエシ・シヤミヤンと稱する猶太教の古寺があつて、此所はモーゼが祈禱した所だと謂はれてゐる。

埃及博物館にはナイル沿岸で發見された古代埃及や布臘の古物が無數藏置され、殊に埃及第一王朝より第六王朝時代に互る各種の蒐集品は其豊富なる事世界第一と云はれてゐる。此博物館の濫觴は千八百四十五年佛國の考古學者マリエツトが埃及政府の反對や資金の缺乏に屈せず發掘蒐集したものに始まつたもので、今日の盛觀は正に彼の賜と云ふべく、其埃及考古學に貢獻せる功績は洵に偉大なものがある。彼は當時の副王サイド・パン

ヤに説いて博物館を創設し、其第一次館長に任ぜられた。而して爾來代々の館長は佛國人である。

此博物館に陳列せられて特に多くの觀覽者を呼ぶものはツタンカーメン王の墓墳から發見された珍寶稀器である。凡そ近年世界に起つた出來事でツタンカーメン王墓墳の發見ほど世人の耳目を聳動したものは鮮ない。其發見者英國貴族カーナヴォン伯は米國の考古學者カーター氏の協力を得て、千九百十四年頃より巨額の私財を投じて埃及古物發掘に従事し、八年の勞苦漸く報いられ、千九百二十二年十一月カイロより約四百哩の上流ルクソルに於て奇蹟的大發見を遂げたのである。發見當時の劇的光景や其發掘物の珍奇且饒多な事は普く全世界に傳へられ、終に埃及の獨立宣言にも勝つて埃及に對する全世界の興味を唆り、延いて埃及模様之流行が歐米の社會を風靡するにまで至つた其當時の有様は今尙吾人の記憶に新たな所である。今この短い文章を以て何千といつて數の知れない發見物を一々解説する事は素より不可能の事である。又其彩麗精緻を極めた稀代の藝術品を筆紙を以て説明し盡さうとする無謀の企は如何なる人も考へ及ばぬ所であらう。

此劃時代的大發見に伴ふ挿話も亦鮮くない。發見者カーナヴォン伯は發掘物の整理未だ

終らざるに發見の翌千九百二十三年春突然病むで死し、偶然にも古墳發掘者が必ず襲はると埃及に言ひ傳へらるる不幸な運命を見るに至つた。次に尙一つ茲に書き添へて置きたいものは「三千年前の不正工事」と題する徳富蘇峰氏の左の一文である。

「請負師や、建築師や、土木、築造に關する不正工事は、必らずしも今日に始つたことではない。恐らくは人間が社會を成したる當初よりの事であらう。

頃ろ埃及のツータンカーメンの墳墓を發掘するや、三千年前の文明は、端なく世に發現し世界の人をして、人間の進歩の餘りに遅々たるを驚殺せしめた。別言すれば如何に古代の文明が、其の美妙の域に達してゐたかは、嘆美已む能はざらしめた。

それと同時に、意外なる秘密が暴露せられた。即ち其の墓の奥の奥の、又た奥たる竈の内を検査すれば、種々の胡魔化しがある。而して其の竈の後背やら、亦た人の目に付かぬ暗らき隅に於ける、諸ろの調度は、何れも不正工事の跡が歴然だ。例せば箔にて塗りたる一列の兀鷹は、其の位置が、全く間違つてゐる。又た諸ろの厨子の扉の合せ方が間違つてゐる。

此れは何者の責任であつた乎。三千年前の埃及の請負師乎、將た三千年前の埃及宮内省の官吏乎。請負師は斯る最奥所の吟味は、よもや監督官吏もせざるべしと安心して、胡魔化したのであらう。監督官吏は、新王の踐祚に没頭して、先王の墳墓などには、餘りに念が入らなかつたかも知れぬ。

然も其の責任者は誰にもせよ、まさか三千年後の今日に於て、それが新聞の種子となることは豫期しなかつたであらう。

國民子曰く、滅金は落つる時あり、化の皮は剝ぐる時あり。平凡なれども正直は最善の政策かな。」

さて吾々はこれで兎に角埃及見物の宿願を果して、鐵路坡西土に急ぎ再び船中の人となるのであるが、最後に埃及觀光客の爲めに特に記したい事は土人の物賣とピラミツドの駱駝の御者に就いてである。カイロの名所、停車場、ポートサイドの市中等に徘徊する物賣が法外の懸値をする事は云ふまでもなく、甚しきは意味ありげな繪畫を密賣すると見せ掛けて、其實管らぬ繪葉書などを好奇心の強い旅客につかませる奴もある。又ピラミツドの駱駝御者が彼等の所謂バックシイ即ち酒手を強要して旅客を惱ませる事は何れの埃及遊覽記にも書いてある程にしかく有名な話である。されば旅客は是等土人の物賣から多くの買物をせぬが安全である。又駱駝の御者に對しては最初相當の心附を極めて置き、それ以上は如何に強要さるるも柳に風と聞き流し、彼等に根氣負けさせるが最上策である、若し五月

蠅いからと云つて、彼等の飽くなき要求に應ずる人は自分の失費は兎に角、後來の見物人の迷惑となる事を知らねばならぬ。

要之是等階級の埃及土人は狡黠洵に度し難いものがある。然しながら是等土人に接する旅客はそれを悪むではない。況んや暴力を以てこれに臨むが如きは嚴に慎まなければならぬ。斯くの如きは決して彼等の尊敬を買ふ所以でもない。旅客は寧ろ斯くの如き經驗が旅の興味を増すものとして、笑つて彼等に對すべきである。蓋しかかる態度こそ實に旅を愉快にと願ふ人の常に保持すべき態度であらう。

觀光旅程

蘇士又は坡西土よりカイロ行、竝に歸路カイロより坡西土又は蘇士行の汽車は何れも日に三回運轉せられ、蘇士カイロ間にあつては總てイスメリア驛で乗換えを要する。その時間表は左の通りである。(昭和十年六月現在)

坡西土・蘇士—カイロ		第一列車	第二列車	第三列車
坡西土	發	午前八時〇分	午後〇時三〇分	午後六時三〇分
カンタラ	發	午前八時五八分	午後一時一九分	午後七時二一分
イスメリア	發	午前九時三七分	午後一時五二分	午後七時五四分
蘇士 (Port Tewfik)	發	午前七時〇分	午前一時三五分	午後五時二〇分
蘇士 (Ville)	發	午前七時一〇分	午前一時四五分	午後五時三〇分
イスメリア	發	午前九時一五分	午後〇時五〇分	午後七時三五分
イスメリア	發	午前九時四一分	午後一時五六分	午後七時五九分
ベニハロ	着	午後〇時一八分	午後三時四二分	午後九時四七分
カイロ	着	午後一時〇分	午後四時二五分	午後一時三〇分
カイロ—蘇士・坡西土		第一列車	第二列車	第三列車
カイロ	發	午前七時一〇分	午前一時〇分	午後五時三〇分
ベニハロ	發	午前七時五二分	午前一時四三分	午後六時一三分
イスメリア	發	午前九時四〇分	午後一時三〇分	午後八時〇分

イ ス メ リ ア	發	午前 一〇時一〇分	午後 二時一〇分	午後 八時一五分
蘇 士 (Ville)	着	午後 〇時二〇分	午後 四時一五分	午後 一〇時一九分
蘇 士 (Port Tewfik)	着	午後 〇時三〇分	午後 四時二五分	午後 一〇時三〇分
イ ス メ リ ア	發	午前 九時四五分	午後 一時三七分	午後 八時 六分
カ ン タ ラ	發	午前 一〇時二九分	午後 二時一三分	午後 八時四四分
坡 西 土	着	午前 一時二五分	午後 三時 〇分	午後 九時三〇分

各列車共壹、貳、參等車を連結し第二、第三兩列車の壹等はブルマンカーで食堂車を有してゐる。

カイロ観光の旅程は船の蘇士及び坡西土に於ける着發時間と右表の汽車時間とにより次の四案となる。

第一案

午前七時蘇士港發の列車で午後一時カイロ着。ホテルにて晝食の後、金字塔、スフィンクス、博物館(冬期のみ)、モハメツド・アリ回々教寺院、城砦等を見物。午後五時三十分カイロ發、車中にて夕食をとり午後九時三十分坡西土着。

第二案

午後五時二十分蘇士港發、車中にて夕食、午後十時三十分カイロ着。ホテルに一泊。翌日、金字塔、スフィンクス、博物館、城砦、モハメツド・アリ、サルタン・ハサン回々教寺院等を見物。午前十一時カイロ發、車中で晝食を攝り、午後三時坡西土着。

第三案

午後五時二十分蘇士港發を出發し午後十時三十分カイロ着。ホテルに一泊。翌日、金字塔、スフィンクス、博物館、城砦、モハメツド・アリ、サルタン・ハサン回々教寺院等を見物するは第二案と同様。ホテルにて晝食の後更にカイロ市場並に市内見物をなし、午後五時三十分カイロ發、夕食車中、午後九時三十分坡西土着。

第四案

午前十時三十五分蘇士港發、晝食車中、午後四時二十五分カイロ着。金字塔、スフィンクス等を見てホテルで夕食一泊。翌日、博物館、城砦、モハメツド・アリ及びサルタン・ハサン回々教寺院等を見物。午前十一時カイロ發、晝食車中、午後三時坡西土着。
前記何れの旅程を選ぶにしても、旅行の前から充分精細に見物個所或は見物事項を研究

調査して、案内人に曳き廻されるのでなく案内人を曳き廻す程の用意が望ましい。茲に注意を要するのは埃及博物館の縦覧時間であるが、夏季に於ける第一案の如く之を見通がす虞があれば、蘇士港より自動車を驅るも亦一策であらう。自動車は蘇士港より約二時間半でカイロに達し、其料金も汽車賃に較べ一人に付英貨十志位を増すに過ぎない。そして行程七十五哩の間沙又沙のアラビア沙漠を横断する壯快さは此地方を旅行する者の是非體驗せねばならぬもののであることを附言し度い。

東航坡西土よりカイロを訪づれ、蘇士で復船する場合にも前例の振合により旅程を組むことが出来る。但し坡西土よりは汽車の代りに自動車を利用しても、所要時間に左程の相違なく料金も一人に付英貨一磅位高くなるから、特殊の事由がなければ自動車を據るのは無意味である。

因に埃及博物館の開館時間は次の様に可なり複雑してゐるから、旅行の日が夏季であるか冬季であるか、月曜日や公休日、或は金曜日に當りはせぬかを確かめることが肝要である。

(一) 月曜日並に公休日には開館せず。
(二) 冬季に於ける開館時間。

(A) 十一月、三月、四月。

金 曜 日 午前九時より同十一時十五分迄。午後一時三十分より同四時三十分迄。

其他の曜日 午前九時より午後四時三十分迄。

(B) 十二月、一月、二月。

金 曜 日 午前九時より同十一時十五分迄。午後一時三十分より同四時迄。

其他の曜日 午前九時より午後四時迄。

(二) 夏季に於ける開館時間。

五月、六月、七月、八月、九月、十月。

金 曜 日 午前八時より同十一時十五分迄。

其他の曜日 午前八時三十分より午後一時迄。

カイロ見物の案内業者として現在日本郵船會社では南部商會とトマス・クツク社とを指定し船客の任意選定に委して居る。料金は兩社とも略々同様であるが旅程の種類によりて異り、例之汽車もホテルも一等とする場合、汽車を二等ホテルを一等とする場合、汽車もホテルも二等とする場合、或は蘇士カイロ間を汽車の代りに自動車を使用する場合等によ

つて相違があるので、詳細は案内社の料金表を参照して戴くこととし此所では單に英貨五磅位から八磅位までと記して置く。そして此料金は

イ、船より汽車又は自動車迄の小蒸汽船賃金。

ロ、通し汽車賃。自動車使用の際は其賃金。

ハ、汽車中の食事料金並に心附（酒類を含まず）。

ニ、ホテル料金並に心附。

ホ、市内見物自動車賃並に心附。

ヘ、見物の際の通譯料金。

ト、金字塔見物の際の駱駝或は驢馬料金。

チ、檢疫及埠頭税金。

リ、各觀覽所入場料並に心附一切。

を含んでゐるから、買物以外何等の支出を要しない。

此旅行に就ては通例航海中希望者を募り、案内業者に電報で通知して置くから萬事萬端
同人が斡旋して呉れる。勿論單獨旅行が不可能な譯ではない。併し忙しい旅程により支障

なく觀覽する爲にも、又隨所で執拗につき纏ふ案内人に煩される等の不愉快を避ける爲に
も、指定案内業者を利用して氣安く旅行するのが萬全の策と思ふ。
尙本章に掲げた時間は變更されるかも知れないから旅行に當つては豫め確めて戴き度
う。

埃及漫錄

埃及小史

（前王朝時代）有史以前の所謂神代である。

（古代帝國時代）第一王朝より第十一王朝に亙り、紀元前三、四〇〇年より同二、〇〇〇年
に至る。帝國建設時代又はピラミッド時代とも呼ぶ。ギザの大金字塔建設者は第四王朝
時代に屬する。

（中世帝國時代）第十二王朝より第二十王朝に亙り、紀元前二、〇〇〇年より同二、一〇〇
年に至る埃及の全盛時代である。イスラエルの埃及脱出は第十七王朝時代の出來事と

されてゐる。又最近其瑩域發見で有名となつたツタンカーメン王は第十八王朝最後の王である。又古代埃及國王中の最著名なるラムセス二世は第十九王朝に屬する。

(近世帝國時代) 第二十一王朝より第三十王朝に互り、紀元前一、一〇〇年より同三三〇年に至る。王權漸く衰微し屢々外寇を蒙り、エチオピア、アツシリア竝にペルシヤ等の支配下に屬した。

(希臘、羅馬屬領時代) 紀元前三三二年より紀元六四〇年に至る。紀元前三三二年歴山大王に攻略せられ、爾來約三百年間其部將トレミーの子孫によりて支配せられ、アレキサンドリヤ府は一時希臘文明と世界商業の中心地として繁榮を極めた。後年に至り秕政内亂止まず、一方羅馬帝國の勃興につれ、紀元前三〇年女王クレオパトラの毒死を最後としてトレミー家の統治を離れ、羅馬帝國の領有に歸した。

(サラセン帝國時代) 紀元六四〇年回々教主オマーの武將アムルの侵略より同一、五一七一年土耳其の屬領となるまで約八百七十年間に互る。其末葉に於てはマメリユツク族の支配下にあつた、九六九年ゴア將軍カイロ府を建設した。

(土耳其帝國時代) 紀元一、五一七年土耳其王セリム第一世マメリユツク王チヌーマンベ
ーを攻めてこれを殺し、埃及は遂に土耳其領に歸した。後土廷の權威漸く衰へてマメリユツク族大に跋扈した。一、七九八年奈翁の攻略によつて一、八〇一年まで約三年間佛軍に占領せられた。一、八三一年知事モハメッド・アリ土廷に叛き兵を擧げ大に土軍を破り爾後埃及は土耳其の一州たる實を失ひ宛然獨立の一藩を成すに至つた。一、八四一年のロンドン條約及び之れに基く土帝の勅諭とにより埃及は土耳其の從國となり、モハメツド・アリは土帝の委任の下にヴァリ(總督)の名を以て埃及の世襲支配權を保有する事となる。一、八六七年アリより第五代の總督イスマイルは土帝よりケデーヴ(副王)の稱號を授けられ、且つ更に多くの國際的權能を認めらる。一、八六九年スエズ運河開通す。一、八七六年財政困難の極、埃及の財政は英佛の共同監督の下に立つに至り、後英國單獨の監督に歸した。

(英國占領及保護時代) イスマイル廢せられて其長子テウフキツク代つて副主となるや間もなく、外國の干渉を非難するの聲漸く國內に高く、遂に一、八八二年六月亞歷山府に於て暴動起る。乃て英國は軍隊を上陸せしめ、同時に土耳其竝に列強に對し副王の承認を以て運河を警備する旨を告ぐ。斯くして埃及は土耳其に對する從國の地位にあると同時に

に英國の占領を受け、事實上に於て總て英國の實權の下に立つに至り、英埃間の關係は結局ミルナー卿の所謂「面纱を施せる保護關係」となつた。

一、九〇四年英佛協商し、英國は佛國のモロッコに於ける自由行動を認むるに對し、佛國は英國の埃及に於ける自由行動を妨げざる旨を宣言した。

一、九一四年世界大戰起り、土國が英國を敵として參戰するに及び、英國は埃及を公然保護國と爲す旨を宣言し、土耳其の埃及に對する宗主權の終止を認むるに至つた。同時に副王アツバス・ヒルミを廢しフツセーン・カメルを埃及のサルタンと爲した。

一、九一八年世界大戰休戦後、埃及の獨立を要求する國民的運動漸く盛となり、遂に一、九一九年其主腦者ザグルールの逮捕となり又ミルナー卿を首長とする調査委員の派遣となる。

一、九二二年二月二十八日英國は英埃間の保護關係を廢止し、埃及の獨立承認を宣言す。同年三月豫てフツセーンに代りサルタンとなつたフーアットはフーアット一世の名を以て王號を稱し、且つ陛下の呼稱を用ふべき事を宣言した。一、九二三年四月新憲法の發布を見た。

其後完全なる獨立を得んとする國民的運動激烈となり一、九二四年十一月カイロに於てスダン總督スタツク少將の暗殺事件を生じ、英國の最後通牒となり埃及は賠償金支拂其他數個條の要求を容るるに至つた。

埃及人種

太古埃及人は如何なる人種なりしか確説なきも、亞細亞より紅海を渡つて南部埃及より移入し來つたハミツク種族とナイル沿岸の土着民との結合したものである事は殆ど疑ない。而して後更に文化の進むだ一種族の侵掠を蒙つて其感化を受くるに至つたが、其侵掠した種族はユウフラチス沿岸より襲來したもの如く、麥類の耕作、冶金術等を傳へた。斯くして王朝時代の燦然たる埃及文明を生むに至つたのである。

現代埃及民の中堅を成すものはフェラーと稱する亞刺比亞系埃及人で全人口の九割以上を占めてゐる。彼等は第七世紀の中葉アムールの埃及攻略後移住した亞刺比亞人と土着民との雜婚によつて繁殖した種族で、其容貌骨格が古代埃及人に酷似してゐると云はれてゐる。彼等の奉ずる宗教は回々教である。次に古代埃及人の直裔であるコプトと呼ぶ一種族

があつてジャコバイト派基督教を奉じてゐる。其他の所謂埃及の少數民族にはベドウキンと稱する沙漠に半遊牧的生活を営む者、南部埃及に住むヌビアン人竝に専ら僕婢其他の下級勞働に従事するスダン黑人等がある。

古代埃及の宗教

古代埃及の宗教は多神教で、最上の神をオシリス（ラー又はアモンとも云ふ）と呼び、埃及の四季を司り、ナイルの沃土を與ふるものと信じられた。而してオシリスは太陽を神聖化したものである。又埃及人は動物崇拜で、就中アピスと稱する牛を特に尊敬しこれを聖獣とした。其外埃及人の神聖視したものに猫、狼、五位鷲、鷹、蛇、鱈魚、甲虫等がある。

元來埃及人は一種の轉生輪廻説を信じ、生死の現象は靈肉の分離和合に依つて起さるるとし、靈魂は不滅であるから肉體さへ完全に保存さるれば、靈肉の離合に依つて生死は絶えず繰返さるものと信じた。而して其靈魂には五つの異なる職能を有するものがあり、カ―と呼ぶ靈魂は死後も猶墳墓内で飲食を攝り、バイと呼ぶ靈魂は死後は姿を鳥に變じて常

に墳墓の附近を逍遙し後日遺骸に息を吹きかけて蘇生せしめるもので、其他ランと云ふ姓氏の靈魂、キペットと云ふ陰の靈魂、カートと云ふ死體の靈魂の五つがあるものと信じられてゐた。又埃及人は死すると冥府でオシリスの審判を受けるものと信じてゐた。それで遺骸を葬る時にはパピラスに認めた「死人の書」なるものを木乃伊の巻布の中に挿込むで置いたのである。之れはつまり地獄極樂案内記を兼ねた死人の心得書とも云ふべきものであつて、先づ人類最古の宗教經典であらう。

ナイル河

ナイルは赤道直下に横はるヴキクトリア湖其他の所謂赤道湖群に其源を發し、北流して地中海に注ぐまで延長三千四百七十三哩あり、之れにヴキクトリア湖の源流カゲラ河の延長を合すれば四千哩餘に達する世界第二の大河である。其源より北流千五百六十哩スダンの首府カータムに至るまでナイル河と呼び、此所で青ナイル河と合流する。千九百二十四年十一月スダン總督暗殺の結果、英埃兩國間の問題となつたゲジラ灌漑地は即ち此兩河間に横はる平原で、英國が巨資を投じて經營せる棉花耕作地である。

カータムより約二百哩の下流に於てアトバラ河（一名黒ナイル）を合する。このアトバラ河は七月より十月に亙る漲溢季に多量の火山灰を流下する。これナイル河が其下流に沃土を齎す最大源流を成すものと云はれてゐる。而してナイル河はアトバラ河合流後、カイロの北方約十四哩の邊でロセツタとダミエツタの二流に岐れて海に注ぐ迄約千七百哩の間一も之れに會流するものがなく、其流域の大部分は年中殆ど無雨の地で、河水は蒸發と滲漏と灌漑との爲めに下流に於て却て減量する。これ其延長に於てはミシシッピ河に次ぐ世界第二の大河なるも、下流に於て其幅員の吾人の眼を驚かすに足るものなき所以である。又以て埃及が此唯一筋の流に其全生命を托せるの情を知る事が出来る。されば千九百二十四年十一月英國が其最後通牒に於てゲジラ灌漑地の無制限擴張を要求せるに對し、埃及の容易に之れを容れなかつたのはナイル上流に於ける使用水量の増加が埃及の農業に及ぼす影響を虞るるが爲めであつた。

ナイル河はカータム市附近に於て海上約千二百五十呎の高さにあり、其以後六箇所の大急湍を経て水準を遞下してゐる。最下流のものを第一急湍（First cataract）と呼び、カイロ市より約六百哩の上流アスワン市附近にある。上古埃及人は此地をナイルの源泉と信じてゐた。

じてゐた。

ナイルの水源地は十二月を除き終歲降雨の地であるが、四月と十月の降雨が最多量である。而して水源地より海に達するには平均平水季に五十日、汎濫季に九十日を要すると云はれてゐる。カイロ附近に於て河水は六月に於て最低を示し、同月下旬より九月中旬に亙り漸増し、十月に至り最高に達し、爾後六月まで漸減する。

年々ナイル河が汎濫して其兩岸一帯に沈澱堆積する泥土を利用し其儘これに播種し穀物を收穫する農業法は埃及人が上古より營むだところである。此方法は減水期五、六、七の三箇月間に耕地大部分の農業を全く休止しなければならなかつた。然るに近年殊にモハメツド・アリが棉花栽培を奨励して以來、種々の治水工事、灌漑施設が計畫され、現今に於ては一年を通じて耕作し得るのみならず、益々耕地を擴張し、且昔日の如く其年の豊凶が一にナイルの水量のみ左右せらるる如き事は殆ど無くなつた。即ち現今ナイルの兩岸には無数の貯水池があつて、運河によつてナイルの水を引入れ、耕地の灌漑に便してゐる。この灌漑装置に伴ふ堤防修理工事等には、從來政府は全國の男子を強制徴發し、無償勞役に従事せしめ、弊害甚しかつたが、千八百八十九年以來之れを廢した。

又河中數箇所には大堰が築造されて、河水の調節を行つてゐる。就中アツサムの堰堤は其規模に於て世界第一の稱がある。河身を横斷せる堰堤の長さ一哩四分の一、高さ百四十六呎半、厚さ四十呎乃至百呎あり、百八十個の水門を備へてゐる。之れによつて深さ八十八呎延長百八十五哩に亙る一大湖を形成し、二十四億二千萬立方米突の水を貯溜する事が出来る。七月上旬ナイルが増水を始めると共に全水門を開き、十一月下旬に至り濁水の減退を待つて水門を漸次に閉鎖する。斯くして堰堤の上流は一大貯水池となり、二月初旬に満水に達する。而して三月下旬頃、下流耕地に於て水の必要を見るに従つて漸次水門を開放するのである。此大堰は英人技師ウキルコツクス氏の設計に基き千八百九十八年に起工され千九百十二年に完成した。

古來埃及の豊年飢歲は一に此國の親神と崇稱さるるナイル河の高低に懸つてゐた事は上記の通りである。従つてナイルの水量に關しては昔から種々の怪説や奇習がある。其人民の信する所によれば、ナイルの増水は六月十七日の夜に甘露降り其餘滴より滔々の水勢を醸すのであつて、當時南風吹き始め、一種の香を帶び、此香を早く嗅ぐ時は福を受くとなし、都人は田舎に赴く風俗があつた。大抵七月三日頃より水量次第に増すに従ひカイロ府

廳にて各區に入を馳せ、毎日水量の高さを大聲に呼び人民に布告する習があつて、古來各所に其水量を計る装置が設けられてあつた。其中最有名なる量水臺即ちナイロミーターはカイロの西南に當るナイル河中の小島ロダに今尙保存されてゐる。其當時増水季に於ける灌漑用最低水量を十六キュビット(約二十八尺)とされ、之れ以上に達する時は豊年の兆とした。即ち水量十五キュビット三分の二に達するや各灌漑水路の水門を開いて全國の田畝に配水され、此日は全國の大吉祥日であるからカイロの知事は僚屬を率ひて量水臺に臨み祭式を行つた。又其昔は水を増した神徳に應じ、河神に奉る爲めにと嬋妍たる處女を盛装せしめて、ナイルの水底に沈むる風習があつたが、舊カイロ市の建設者アムルに至つて之れを禁絶した。

又ナイルの高低は其歳の豊凶を左右した事から、水量の如何を以て直に租税の多寡を定めた。而して徵税の多額を欲した當時の政府は、往々水量につき虚偽の布告を出し、又は不正の水量器を使用して人民を瞞着したと云ふことである。

東海散士編「埃及近世史」に載せられたる谷將軍の序

其市街を視れば煉瓦石室相竝て輪奐高く聳へ人道車道は綠樹を以て分界し華麗繁盛歐洲に入るの思ひあり其の中に住む者を問へば多くは歐洲各國の商人にして本國民の多數は鶉衣身を蔽はず窮巷に踉蹌たり其城を觀れば壯嚴濶大勅敵猶は逡巡すべし其守者を問へば盡く外兵にして本國の兵に非ざるなり是れ現今埃及首府の状態なり余曾て其敗將亞刺飛を錫蘭島に弔ひ其敗衄の由る所を尋ね其志の存する所を叩き覺えず涙下る遂に路を迂して所謂新海樓府に遊び其慘狀を目撃し慨然之を久矣噫凡庸の政治家國力を計らず民情を察せず徒に己れの嗜好に任せ歐風に之れ模擬し終に沐猴冠たるの誹りを免れざるもの猶ほ田舎漢が東京の壯觀に心酔し遽に舊屋を破壊し田畝を典質し都様の家屋衣服を新造し隣里郷黨に誇稱するが如し眞に是れ一時の夢幻のみ其家屋未だ弊せず其衣服未だ汚れず而して早く已に他人の掌中に歸し去る愚も亦甚だしからずや夫れ物各順序あり嚴寒を忍ばざれば千紫萬紅の春に逢ふこと能はず是れ鷓冠子が所謂天則にして天已に其理に違ふこと能はず況や人や只識者能く其理に通じ巧に天則を利用し或は張り或は弛め彼の苗を抜くが如き愚を學ばず是れ四時の變化皆必要缺く可からざる所以なり嗚呼國鈞を執る者之を其初めに慎まらず災害竝び臻るに及んで右往左往其困難を避けんと欲す豈其れ之を如何せんや東海散士は余が

益友なり余と同く各國に周遊し徒に之を目に見る而已ならず又能く之を心に視るもの彼の目眩して而して心盲するの徒と何ぞ啻に霄壤の差のみならんや先きに佳人之奇遇を著し以て世俗を警醒す今や埃及近世史の選あり嗚呼散士英佛の盛事を語らず却て敗政亡徴の埃及を説くもの其志知るべし彼の政局に當る者月に酔ひ花に狂するの餘暇此書を繙き之を目に見ずして而して心に視ば乃ち内外の政務を料理するに於て各自ら誤らざるのみならず亦以て上君を誤り下民を誤る咎を免るるに庶幾からん乎

明治二十二年風雷一聲秋霖初めて晴るるの日

隈山居士識

埃及女の風俗

埃及に遊ぶ旅客の眼に必ず觸るるものは其女の異様な風俗である。マホメツト教を奉ずる埃及の女は皆年頃になると、頭の上から黒いかつぎを被り、眼の直下からは長い黒色の面紗を垂れ、鼻の上にはヤシマクと稱する黄金又は眞鍮の飾を着けてゐる。上流の婦人はヤシマクを帯びず、又黒紗の代りに短い白紗を同様眼の下から顔全體に垂らしてゐる。故に屋外で埃及女の顔全體を見ることが出来ないが、かつぎと面紗の間からのぞいてゐる彼

等特有の大きな黒眼は甚だ美しい。又彼等が朝夕水甕を肩にしてナイル河岸水汲場に往來し、或は子供を背に跨がせ、それを片手で支へて市中を歩く姿勢は美事なものである。

斯くの如き埃及女の風俗は回々教國に於ける婦人の社會的地位を如實に物語るものである。回々教國に於ては教律や習慣によつて、婦人に對し其外界との交渉に種々の制限が附せられてゐる。即ち彼等は閨房（ヘーレム）内に隔離され、家庭内に恰も囚人の如き生活を送つてゐる。偶々外出する時は黒布に其容姿を包むで衆人の眼を避けんとするのである。然れ共斯くの如き不自然且沒人格的の制度習慣が今日の世情と相容れざるは明かな事である。年土耳其に於ては婦人解放の聲漸く高く、面纱を帯ぶる婦人少く、又コーランにて四人迄の妻妾を蓄ふる事を許された制度を廢して、一夫一婦の制を法律にて規定さるるに至つた。斯くて土耳其に於てはヘーレムの神秘もヴェールの蠱惑も共に漸く滅びんとしてゐる。而して埃及の女が同様覺醒解放さるる日は尙前途遼遠だと云はれてゐるが、國民黨首領ザグルール・パシヤの夫人は歐洲的教育を受けた有名なる賢婦人で、良人の事業を助くると共に埃及婦人解放運動に率先盡力してゐる。

東宮殿下のカイロ行啓

東宮殿下は大正十年御外遊の途次、英國統監アレンビー元帥の御招待を受けられて、四月十八日より同二十日に亙りカイロを御見物になつた。左記は二荒、澤田兩氏共著「皇太子殿下御外遊記」の一節である。

「午後五時から統監官邸で、殿下を主賓とせる清楚な園遊會が催された、これには同地に駐劄する外交團員及びエジプト政府の閣員その他、高官等が列席した、此の日、英國ハイランドの軍樂隊のバクバイブは最も御旅情を慰め奉つた。

八時より官邸で統監主催の公式晩餐會があつた。

此の晩餐の後であつた。殿下は美しい挿話をお作りになつた。

アレンビー元帥夫人が、殿下に「今回エルサレム地方に御出でなのは洵に遺憾で御座います。」と事もなげに伺つた。御承知のやうにエルサレムは耶蘇教徒、猶太教徒の聖都として、歴史上最も有名な所でもあり、地學上有名な死海の岸に近い所でもあつてエジプトからお出になる事は左程困難ではないのである。その上、同地駐劄の英國統監サミュエル氏よりも豫て殿下を同地にお迎へ申したいとの申出でもあり、殿下にも同地御訪問の御考もないではなかつたが、何れにせよ時間が

ないので折角ではあつたがサミュエル氏のお招きをお断りになつたのであつた。然るに殿下はこの元帥夫人の語に對して「自分も此地方は、夫君元帥が世界戰爭中祖國のために偉大な功績を立てられた所であるから、是非訪ねたいと思ふが、時の都合で立寄ることが出来ないのは洵に残念である。」と仰せられた。

實にアレクシー元帥が、一獨立軍の司令官として、炎熱と戦ひ困苦を忍んで聖都エルサレムを攻略して、聯合與國の耶蘇教徒を歡喜せしめたのは西紀一千九百十七年四月で、同元帥が中將の時代であつたのである。

殿下の咄嗟の御挨拶は簡單ではあつたが、閃光の如くに元帥夫人の胸に響き、當時元帥が氣候風土の全く異なる酷熱のアラビヤ沙漠に曠日彌久の戦を續けた光景を、屢氣樓のやうに眼の前に回想されたことであらう。元帥夫人は非常な喜悅の情を以て、殿下の御言葉に感謝したとの事であつた。殿下は又屢々元帥とも御對話になつたのであるが、巨軀六尺を凌ぐ赤顔の老元帥と、春秋に富ませられる海軍少佐服を召した殿下とが、檳榔子の風薫る官邸についての御會談は、それ自らが美しい畫圖であつた。」

埃及の獨立とザグルール・パシヤ

埃及が獨立の立憲王國たる今日の地位は實に最近四十年國民苦闘の結果である。元來埃及の獨立は現埃及王朝の開祖モハメッド・アリによつて一度企圖せられたるも、之れ素より彼一人の事業で、國民とは殆ど交渉がない。抑も埃及の獨立が國民的運動となつた發端は千八百八十二年の軍隊的叛亂で、其運動の指導者はアーメッド・アラビー・パシヤである。該事件は彼の屬する埃及軍隊の内訌に起因し、軍隊と副王との爭議を招き、其間に行はれた英佛の陰謀と宗主國土耳其の干涉は、更にアラビー並に其同志を驅つて排外運動を起さしめ、終に英艦のアレキサンドリア砲撃、英軍の上陸を見るに至つたのである。而して彼は英軍に拘囚せられて千八百八十三年錫蘭島に流謫され、千九百一年釋放を受け、千九百十年長逝した。彼の一舉は偶々不幸にも英國の永久的占領を實現する機會となつたが、彼が國民的運動の開山にして、埃及人の埃及を作らうとした獨立心に燃ゆる愛國者たりし事は疑ひがない。

次に埃及國民をして忘る事の出来ないのはムスターファ・カメル・パシヤである。アラビー・パシヤは國民黨の始祖であるが、彼が主として軍隊的方面を代表したものとすれば、此は主として政治的方面の國民黨始祖である。彼が名を知られたのは所謂デンシヤワイ事

件の時からである。該事件はデンシヤウイ村に於て銃獵せる英國人の過失により村民と争鬪を起し、英國人側に數名の死傷者を生じたるに對し、村民に苛酷なる刑罰を加へたる結果、埃及人の憤激を招き、「獨立」、「解放」の聲は是れより高く叫ばるるに至つたのである。此時カメルは一箇の青年法律家に過ぎなかつたが、奮然として蹶起し、挺身して此運動の爲めに奔走した。其動作、其雄辯、其膽勇は忽ち此運動の指導者たらしむるに至り、二年の後に眞に國民黨として有力なるものが生れ出でた。彼は國民黨機關紙として亞刺比亞語の外英佛語の數新聞を發刊し、又學校を經營して子弟を養成したが、不幸にも千九百八年三十四歳を以て夭折した。埃及人に對する彼の思想的感化の如何に深大なものがあつたかは、今猶彼の肖像が熱風沙塵の荒村の家々にまで掲げられてある一事によつて知る事が出来る。國民黨急進派の源泉は方に彼にありと見るべきである。

更に最近の國民的英雄として特筆すべきものはザグルール・サアド・パンヤ其人である。埃及の獨立運動に於ては上記二先驅者の勳功甚大なるものあるは既述の通りであるが是等志士の後繼者として惡戰苦闘終に埃及に少くも獨立の名を贏たしめた者は實に彼ザグルールである。彼の出身もアラビイ・パンヤと同じく農夫の子と生れたるも、能く缺乏と

闘つて高級教育を受け、政府の一局に入つて下級の書記となり、當時の統監クローマー卿の爲めに非常な信任を受け、其推薦により拔擢せられて文部大臣となり、千九百十年司法大臣に轉じたるも、千九百十二年當時の副王ヘルミの忌諱に觸れ桂冠した。而して翌年立法議會創設せらるるや選ばれて議員となり、且つ副議長に擧げらるるに至つた。彼は元來國民黨の漸進派（親英派）に屬したりしが、王朝に對する彼の反抗心は彼を驅つて急進派（排英派）たらしめ、茲に於て彼の眞面目を發揮するに至つた。而して世界大戦中にも埃及には幾多の排英運動が起り其都度ザグルールは首謀者と目せられたのであるが、彼が眞に活躍したのは戦後である。休戦成立するや埃及の宿志を達する機會は此時にありとして彼は其同志と共に統監ウキンゲートに埃及獨立承認の正式要求を提出し、更に自ら同志と共に英國に赴き埃及問題を英國の輿論に訴ふる爲めの旅行許可（當時戒嚴令施行中につき）を乞ふた。然るに此訴願何れも拒絶せらるるや、彼は更に巴里平和會議に代表派遣を要求し、之亦英國に阻止せられた。茲に於て彼は巴里會議の各國代表者に文書を贈り、埃及獨立を訴へたが、豫て民族自決主義を率先唱道した米國大統領ウキルソン其人にすら顧みらるるところがなかつた。斯くして埃及の輿論は益々激昂し、ザグルールは此機會に乗じて

演説會を開き得意の雄辯を揮つて國民の獨立熱を煽つた。而して英國政府は戒嚴令下にあるの故を以て屢々警告を發して鎮靜を試み、其効なきを見て、終に千九百十九年三月ザグルール及び同志三名を捕縛しモルタ島に流謫した。然るに此高壓政策は却て埃及全國を暴動反亂の巷と化せしむる導火線となつた。即ちエル・アザールの回々教大學生を先驅とせる學生の示威運動先づ起り、埃及官吏の罷業となり、各種の集會隨所に行はれ、終に其運動は暴動化し、騷擾全國に波及し建築物の掠奪破壊、多數の死傷者を生じ、各種通信機關は杜絶し、埃及は上下を擧げて全く混亂裡に陥る事約一箇月に互つた。而して此間英國は前埃及軍司令官アレンビー將軍を俄に埃及に派遣し、百方鎮靜に盡さしめ、終に其具申を容れてザグルール等四人の監禁を解きて彼等の巴里旅行を許し、埃及國內漸く稍平穩に歸するに至つた。而かもザグルール等は巴里に在つて益々埃及の完全獨立を高唱し、本國同志の運動に指導聲援を與へ、當時英國の埃及に派遣せるミルナー調査委員をボイコットするの訓電を發した。随つて再び排英運動白熱化し、ミルナー一行は殆ど何等爲す所なく埃及に滯留三箇月の後、空しく歸英するに至つた。其後殖民大臣チャーチル一行の埃及視察あり、其目的はミルナー協約案より更に埃及に不利なる協約案の作製にある事知らるるや

埃及國內に又復暴動起り、各地に流血の慘事を見るに至つた。當時ザグルールは恰も龍の如く到る處風雲伴ふと云ふ勢を以て、全埃及は全くザグルールの指示する儘に動いた。而して豫て陳情委員として英國に赴いたアドリー總理が英政府との協定成らず、千九百二十一年十二月歸埃使命失敗の責を引いて辭職するや、國內の形勢又復惡化し、暴動、罷業、殺傷各所に起り、ザグルールは再び監禁せられ、其幕僚五名と共に遠く印度洋セエシエル島に流謫せられ、後ジブラルターに移さるるに至つた。

翌千九百二十二年國內稍平穩に歸するに及んで、アレンビー元帥は英本國に招かれ英國の對埃宣言、英埃協約の三度目の交渉となり、其結果同年二月二十八日英國は埃及の保護權を拋棄し其獨立主權國たる事を宣言し、埃及亦同年三月十六日を以て獨立を中外に宣布し、フアド一世新に埃及王となり、翌年四月二十日新憲法の發布を見るに至つたのである。これより曩ジブラルターに幽閉せられたるザグルールの釋放を勸告するもの英本國に於ても漸く増加し、彼は終に新憲法發布を見る數旬前に監禁を解かれて巴里に移るに至り、次で七月埃及に於ける英國軍政の撤廢されると共に彼の歸國も許され、約二箇年の流竄より放たれたる彼は千九百二十三年九月宛然凱旋將軍の如き熱狂的歡迎を受けて歸國した。

而して歸國後彼は再び排英運動に全力を傾倒し、英國が千九百二十二年二月埃及の獨立承認に際し留保せる四箇の條件『(一)埃及に於ける英帝國の交通の安全、(二)外國の侵襲又は直接若くは間接なる總ての外國の關與に對する埃及の防禦、(三)埃及に於ける外國人の利益の保護及び少數民族の保護、(四)スダン等の絶對に英政府の裁量に留保さるる四事項』を撤廢し、彼の宿論たる埃及の「完全なる獨立」に向つて猛進した。而して翌年成立すべき埃及第一議會に送らるべき下院議員の選舉に於て彼の統率する國民黨(ワフド)は反對黨を破り絶對多數を占め、終に千九百二十四年二月彼は埃及首相の印綬を帶ぶるに至り、同年九月英吉利首相マクドナルドの招に應じ倫敦に赴き、埃及及び蘇丹の一般的地位につき新に談判を開始した。當時ザグルールの主張は英軍の埃及撤退、英國のスエズ運河防備に關する主張の抛棄、埃及の外交關係につき英國の監督廢止、財政司法に關する英人顧問の廢止、外人の利益保護及少數民族保護に關する英國の主張の撤去、埃及のスダン併合承認並にスダン駐屯英兵の召還であつた。然るにマクドナルドはザグルールの要求を過大なりとし、談判は終に破裂し、ザグルールは歸國した。其結果は例に依つて國民黨の運動更に激烈を加へ十一月十九日カイロに於てスダン總督英人スタツク少將の暗殺事件を生ずるに至り、英國

人心を激昂せしめ、英國は軍艦を派遣し、埃及税關を占領し、同時に最後通牒を發して、五十萬磅の賠償金、主謀者の處罰、排英的政治運動の禁止、スダン駐屯埃及兵の撤退、ゲジラ灌漑地の無制限擴張を要求した。而してザグルールは首相の職を辭し、ジワル・パシヤ内閣成り遂に英國の要求全部を容るるに至つたのである。

以上は埃及獨立運動に關する最近までの消息概要である。要之英國としては其東西に跨る大英帝國連絡の要路たる埃及に對する根本政策は絶對不變でなければならぬであらう。而して一方埃及國民は益々政治的に覺醒し、英國の提供せる屈辱的獨立を排し、所謂完全獨立を要求し、其大立物たるザグルールは依然國民多數の輿望を負ひ、七十餘歳の老軀を提げて其宿志貫徹の爲めに奮闘を續けたが、千九百二十七年此偉大なる英雄も逝去した。其死が全國民より甚大なる哀悼を受けたことは申す迄もない。

左記はザグルール・パシヤに對するタイムス記者の月旦である。以て彼の面影を窺ふに足るものがあらう。

「彼は其骨格相貌に於て代表的フェラー(亞刺比亞系埃及人)である。長身瘦軀であつて、肩骨張り而して其青黒い顔色、其秀でたる顴骨、其細長い眼差は彼が稍蒙古人的特徴を帶べる事を思はし

むるものがある。彼の性質は不可思議なる混淆を成してゐる。時に非常に勇敢且卒直であるが、時には又奇妙に臆病で且優柔不斷である。時には其態度上品優雅であるが、時には又甚しく傲岸不遜である、彼は俊敏な討論家で、辯難攻撃に巧妙なる事驚くべきものあり、且諧謔に對し強い感覺を持つてゐる。而して其非凡なる辯力は必ず常に聴衆の心を捕ふると共に、雄辯家の通弊として自己の能辯に陶醉し、群衆の喝采や反對者の嘲罵に激するの餘り往々其言論過激に走り、自繩自縛に陥る事がある。

彼の特異なる人格は自國人を魅惑する一種の魔力を持つてゐる。然しながら彼の資質はカヴオア¹（十九世紀伊太利の外交政治家）の型ではなくて、寧ろマデニ（十九世紀伊太利の革命政治家）の型である。即ち彼は集會の辯者たるよりも寧ろ闘技場の選手たるに適してゐる。彼は微妙なる政局に對し外交的折衝に當るべき大手腕を持たないが、時好に投じた運動の争鬪的指揮者たる事は彼が最も得意の壇場である。」

埃及獨立の示威運動

「二萬人の上越す行列は足を止めて一齊に歌つたり、旗をふつたり、手巾をふつたりする。

わあわあと、波のやうな関の聲が湧く。見物の中から手をたたき。英吉利人ならぬ外國人の中には、面白半分手をたたくのもあつたらしい。私共の室の女中マリアなどは、Revolution^だと眼の色をかくて居た。Stationの方から、立派な風采をした土耳其帽の紳士が、馬車で来る。皆がそれを擁して、一齊に囃す。驩呼の聲が、馬車の邊から湧いて、わあわあつと公園の方へ大波のうつつ如く傳はつて行く。國民黨の名士であらう。

夥しい人數、皆昂奮して居るが、亂暴はない。

ゲートルきりりとした無刀の英吉利士官などが、行列から少し傍寄つて、顔色も動かさず、後手を組んで眺めて居る。私の眼は、そこに嘲笑を讀まない。唯自信が出て居る。憎い程落ちついた其容子が、自づから私の嘆美を喚び起した。

忽ち私の心臓が大波をうち出した。私の眼は異様のものを見つけたのである。私共のつかまつて立つ Balcony の欄干から、眼下に見下ろす處に、白い着流しの埃及人が、杖をさし置き、四角い巾を大地に敷くと、其上に跪いてはびつたり兩手をついて、額を大地にすりつけた。髯が眞白、白い頭巾を洩れて流るる髪も眞白である。其白い頭を、地にすりつけて、彼は祈念を凝らしてゐる。と見ると、立上つた。立上つて Mecca の方を拜むだ。ま

た跪いて、大地にびつたりと頭をつけた。跪いては立ち、起つては跪きして居る。直ぐ其前を、わあつ、わあつと若い埃及の血氣が潮の如く奔騰する。私は寒くなつた。體がぶるぶると震へて、涙が湧て來た。

そんなにも、獨り立がしたいのか！

ああ、埃及は獨りで立たしたい！

獅子の爪から埃及が追れやうともがいて居ることも年久しう。Arabi Pasha の錫蘭島島流しも、四十年近い昔の事である。戦争の始まつた一九一四年の十二月、埃及王 Abbas II 世が土耳其に結んで英吉利の軛をはねのけやうとした爲に退位を迫られ、叔父の Hussein Kamel Pasha が位に即して新に史丹の號を帯びるに到つたは、誰も知る處である。戦争中は英吉利も、三人以上埃及人の會合は許さなかつた程に、強壓手段をとつた。休戦となり、少し手がゆるんだので、埃及は騒ぎ出したのである。

Egyptian Mail などは、頻に英吉利官憲のやり方を手ぬるいと論じて居た。而して世界の子等の多くに胸を出して、之を強くすべく仰せつかつて居る老練な英吉利は、示威運動の安全瓣をふさぐにはあまり精巧なのだ。

私は若い埃及の血が獨立に煮え立つを、少しも不思議には思はぬので、示威運動に驚きもしなかつたが、あの白髪頭が一つ大地にすりつけられた時は、涙の湧くを禁じ得なかつた。

妻はまた妻で、男の私が見なかつたものを見つけた、白髪頭は行列の此側であつたが、妻は行列の向ふ側に、ひよくり出て來た物賣り女、頭からすっぽり黒布をかぶつた三十餘と見ゆる埃及女が、行列の獅子吼に共鳴して、頭にのせて居た空籃を右の手に押取り、力一ぱい振り廻はすを見たのだ。如何なる運動も、それが宗教の背景を持つ時、而して女の力が加はる時、それはもう成つたも同然である。私共は後で聞いた。此日の Demonstration 行列には、埃及婦人も一團となつて加はる筈であつたが、英吉利官憲が許さなかつたと。女を敵にした Kitchner ではなすが、Suffragette でしみじみ女に懲りて居る英吉利人は女に勝味のない事はよくよく知つて居るのだ。

朝鮮を持つ日本人の私共なればこそ、埃及に來て、ホテルの眞下にわざわざ此示威運動を寄せて見せられたのだ。埃及の立場に朝鮮を見、日本の立場に英吉利を置いて、其何れをも私共はとつくり腹に入れねばならぬ。『徳富健次郎愛氏共著「日本から日本へ」より』

クレオパトラ直傳の毛生藥

バーナード・シヨウは其著史劇「シーザーとクレオパトラ」の巻後にクレオパトラが愛用したと云ふ毛生藥の製法を希臘語の原本から譯載してゐる。それは次の如きものである。

「二十日鼠の蒸焼、Vine rag(何物を意味するや不明としてある)の蒸焼、馬の齒の蒸焼及び Reed bark(多分葎の外皮ならん)とを夫々一分の割合に混ぜ、粉末とし蜂蜜と捏ね合せたる後、熊の脂と鹿の骨髓を又各一分の割合に混ぜる、これを油又は香油と共に禿げた場所に擦り込むと其効能著し云云。」

埃及とクローマー卿

新埃及の建設者として英國人の功勞を没する事は出来ない。而して此英國人中第一に指を屈すべきはロード・クローマーである。彼が埃及に初めて關係したのは、千八百七十七年埃及公債整理委員に任命された時である。而して千八百八十三年英國事務官兼總領事として再び任にカイロに赴き、埃及改造の爲に大に手腕を振り、最初の九年間は殊に英國人

の誇とする成績を挙げ、其後統監となつて千九百七年迄前後二十五年間英埃兩國の爲に盡したのである。彼は又學識あり、「近代埃及」其他の著書がある。「近代埃及」は朝鮮統治の参考書として、故伊藤公が愛讀したと云はれてゐる。彼が埃及に於て爲した重なる事業は強制勞役の廢止、ナイルの灌漑工事、地價及地租の改正、陸軍の改造、司法制度の改革、教育制度の改善等で、彼が埃及に與へた施政上の改良と物質上の繁榮とは實に異常なもので、現代埃及を語るに當つては到底彼の名を逸する事が出来ない。尙特筆すべきは後年國民黨の恐るべき領袖として、英國に盾を衝くに至つたザグルール・パンヤを拔擢して文部大臣に任命し、故意か偶然か將來國民的運動の指揮者として大に活躍すべき素地を初めて彼に與へたのはクローマー其人である事である。

日本と埃及との關係

「從來帝國と埃及とは政治上何等の關係が無い國土である。單に埃及棉の顧客として、埃及の上下の好感こそ有すれ決して悪感を抱かれやう筈が無いのであるが、事實は之れに反して埃及人は餘り日本及び日本人に好意を有つて居ないと云ふのが、彼等の偽らざる告白

である。之れは單に坊主が憎けりや袈裟まで主義の國際的表現で、何等深い怨恨の存する譯でない。日本及び日本人が憎い所以は至極簡單明瞭である。唯夫れ英國が憎くてく堪らぬ結果其同盟國であつた日本を今でも同盟國であると固く信じて、日本も憎いのであるから迷惑千萬だ。然かも此方面の英人は、英領印度や、支那や濠洲方面の英人のやうな一種の色眼鏡を以て日本人を見て居ないので在留日本人や觀光日本人に對し好意を以て迎へるのみならず、日本の事さへ云へば多少埃及人の御手本振りで英字紙が善く書き立てるので、一層埃及人から日本人が嫉視され憎悪されるのは難有迷惑だ。……乃で私は日埃間に可及的速かに使節の交換を慫慂し度い、現在スエズ運河の北口ポートサイドには日本領事館が設置されてゐるが、日埃間に聯盟條約が締結されず使臣の駐劄を見ざる今日に於ては、埃及より單に其駐在を承認さると云はんより寧ろ認許されてゐると云ふ有様で外交團の一員として毫も權威が無いものである。」(山岡光太郎氏の所論中より)

「埃及は日本などは違ひ極めて富裕であるから……埃及の紙幣は英國の磅さへ及ばぬ……何も向から頭を下げて來る必要はない、併し日本から見れば煙草の輸出と云ひ……煙草の栽培は在來埃及の國禁で少しも國內には産せず、外國より莫大なる葉煙草を輸入する。

紙の起源

殊に優等品は日本政府の專賣葉が主で之を紙卷に製造して逆送する。之が日本紳士の珍重がる「埃及煙草」の正體だ……それに棉花の輸入が大したものだ、江商株式や日本棉花其他も昨年末(大正十二年)アレキサンドリアに店まで開いて直輸入を始めたと言ふわけ日本にとつては是非共條約を結びたい所である。」(大正十三年國民新聞所載志賀重昂氏談より)

泰西各國に於ける紙の語はパピラス(Papyrus)より出でてゐる事は誰も知るところであるが、これは埃及人が創めて造つた紙の原料の草の名である。其昔ナイル河畔に繁茂し今は其上流ヌビア地方の沼地に野生してゐると云ふ、藺に類する多年生の草本で、其髓から取つた纖維を縦横に重ね、粘着液を混じ、槌打を加へ、かくしてこれを紙片狀に製したものである。今より四千年前に既にこのパピラスが造られてゐた事は考證によつて明かである、而して紀元前四百年頃に至り歐洲に輸入され、其當時パピラスは埃及輸出品中の主要部分を占めてゐた。パピラスの用途は書字の爲めであつて、今はこの紙を用ゐた古文書をパピラスと呼ぶのである。エジプト博物館に行けばこれを觀る事が出来る。

ミイラの語源

「言海」の證明によるとミイラの語は洋語 Mummy を支那にて木乃伊(モノイ)と訛譯したのから更に轉訛したものである。

「出埃及記」より

「爰にレビの家の一箇の人往てレビの女を娶れり女姪みて男子を生みその美きを見て三月のあひだこれを匿せしがすでにこれを匿すあたはざるにいたりければ崔の箱舟を之がために取て之に瀝青と樹脂を塗り子をその中に納てこれを河邊の葦の中に置きその姉遙に立てその如何になるかを窺ふ茲にパロの女身を洗んとて河にくだりその婢等河の傍にあゆむ彼葦の中に箱舟あるを見て使女をつかはしてこれを取りたらしめこれを啓きてその子のをるを見る嬰兒すなはち泣く彼これを憐みていひけるは是はへブル人の子なりと時にその姉パロの女にいひけるは我ゆきてへブルの女の中より此子をなんぢのために養ふべき乳母を呼きたらんかパロの女往よといひければ女子すなはち往てその子の母を呼きたるパロの女か

れにいひけるは此子をつれゆきて我ために之を養へ我その値をなんぢにとらせんと婦すなはちその子を取てこれを養ふ斯てその子の長ずるにおよびて之をパロの女の所にたづさへゆきければすなはちこれが子となる彼その名をモーセ(援出)と名けて言ふ我これを水より援いだせしに因ると。」

基督の埃及避難

「彼等が去るのち主の使者ヨセフの夢に現れて曰けるはへロデ嬰兒を索て殺んとする故に起て嬰兒と其母とを挈へエジプトに逃て復わが爾に示さん時まで彼所に止れヨセフ起て夜嬰兒と其母とを挈へエジプトに往へロデの死するまで其所に止れり是主豫言者に託して我わが子をエジプトより召出せりと云給ひしに應ぜん爲なり。」(馬太傳より)

「前世紀のあらゆる破廉恥なるものとあらゆる華麗なるものとを産むだ埃及、歴史の大波小浪が寄せて來ては碎けて消えたところ、僅か數年前ポンペーやアントニーが神聖羅馬帝國の夢と共に自らの一生の終を見たところ、水から生れ太陽に灼かれ幾多の人の血に浸されたこの老大な國、多くの動物神を崇拜したこの背理的で超自然な國、その埃及が神慮に

依つて豫め定められた嬰兒キリストの避難所となつたのは對照の妙を極めたものである。」
(バビニの基督傳より)

埃及と蘇丹との關係

千九百二十二年二月英國が埃及の獨立を承認した際に四箇の條件を後日の協商に留保した。其一はスダンの所屬問題である。蘇丹は紀元數千年前既に埃及人隊商の往來する所であつた。而して紀元前三千八百年埃及第四王朝のセネフェル王はスダンに遠征し、七千人の奴隸と二十萬の家畜を分捕つたと云ふ記録が遺されてゐる。即ちスダンが埃及の奴隸供給地として後年甚だ盛であつたのは既に此時代に其端を發してゐた。爾後埃及王はスダンを奴隸と黄金の産地として、漸次これを攻略し、第十八王朝時代には其所領、青ナイル邊にも及んだ。而して紀元六百四十年アムールが埃及を征服すると共にスダンをも侵略し、千二百七十五年に至り全くサラセン帝國の支配下に歸した。次で千五百十七年土耳其王セリム埃及を攻略するや亦スダンに出帥し其北方の大部分を占領し、之れを土耳其帝國の有としたり。而して千八百四十一年モハメッド・アリが土帝より埃及の統治を委任せらるると共

に、スダンの支配及行政も亦爾來埃及總督に委任せらるるに至つた。然るに千八百八十二年以降自稱マヂ（豫言者）なるものスダンに於て勢力を得、頻りに埃及兵を破れる結果スダンは一時拋棄さるるに至り、千八百八十五年有名なるゴルドン將軍はカータムに於て戦死した。而して英國は其後獨佛伊諸國との條約により、スダンを英國の勢力範圍と認めしめた。是れケープよりカイロに至るまでを其權力下に置かんとする英國の遠大なる計畫に基けるものに外ならないのである。當時埃及の統治下にあつたスダンは北アスワンより南赤道に至り、千六百五十哩、西ダーフアーより東紅海に達し千四百哩に互つた。其後千八百九十六年に至り英國はスダン再征の軍を起し、キチナー將軍指揮の下に英埃兵を送り、三箇年を費して之れを平定克服した。而して千八百九十九年英埃條約締結され、終にスダンは英埃兩國の共同統治國となり、以て今日に及むでゐる。而してスダンの主權に關する英埃間葛藤の近因は千九百二十三年埃及憲法の起草者が「スダンは埃及の一部」なる文字と「埃及及びスダンの王」なる文字を憲法に記入せるに起り、時の内閣は英國の抗議により右憲法條文の修正を餘儀無くせられ、終に總辭職するに至つたのである。

現在埃及の國民黨の主張する所はスダンは埃及と絶對不可分であつて、スダンが他國の

683
63

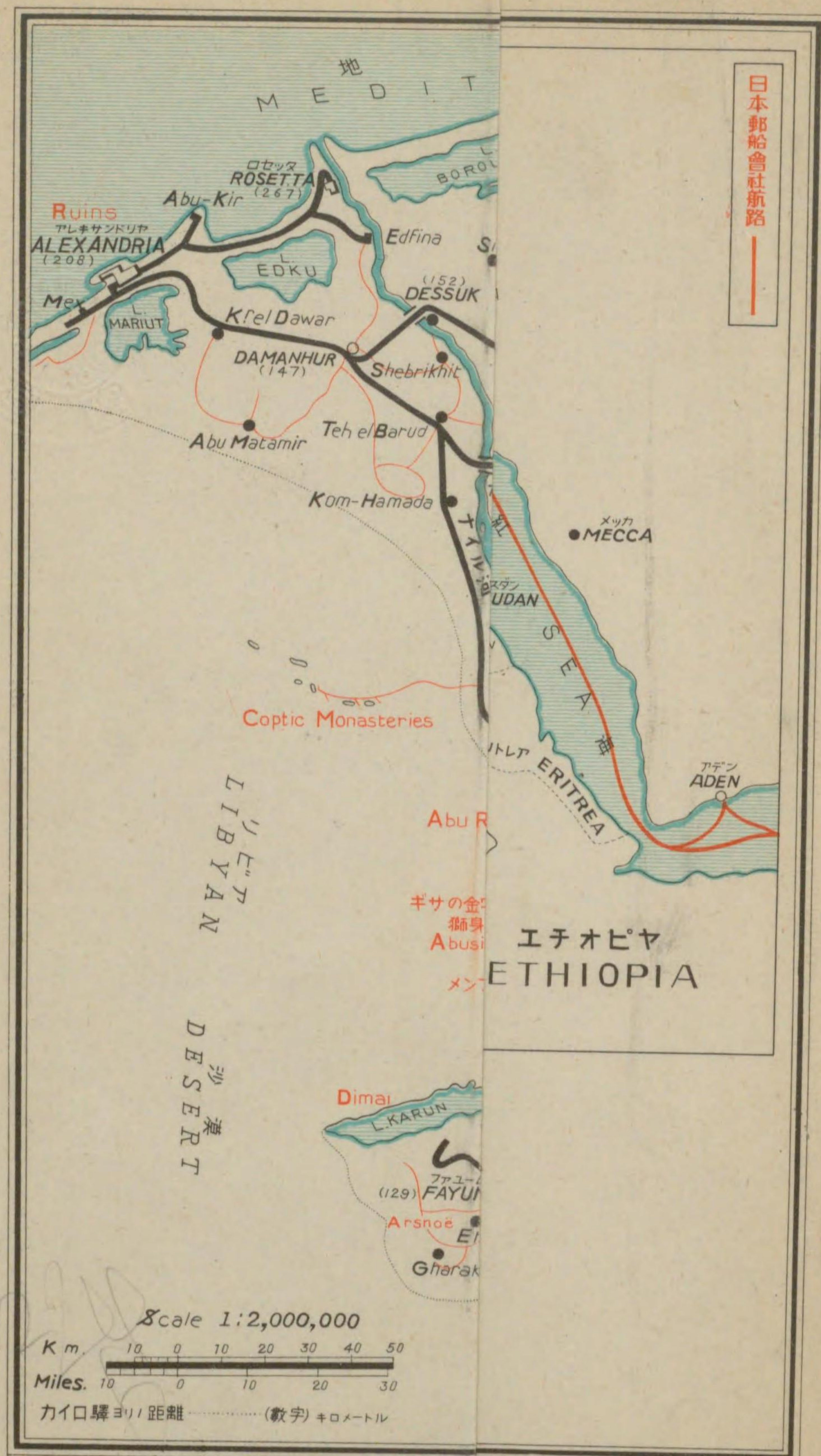
手に在つては埃及は完全に獨立が出来ないと云ふのである。何となれば埃及の命の親であるナイル河の源流白ナイルと青ナイルはスダンの盆地を流れてゐて、スダンを領有する者は埃及の死命を制するからである。これに對し英國の主張する所は曰くスダンと埃及の間には山嶽重疊兩者自然の境界を作り唯僅かに一條のナイルの峡谷にあつて交通が出来るのみである。又スダンは千八百九十八年英軍の征服したものである、又其人口四百萬中大部は亞刺比亞人及び亞弗利加黑人で埃及人の住民に至つては寥寥數ふるに足らない。即ちスダンは地理的にも歴史的にも又人種的にも埃及に隸屬すべき理由がない。加之スダンの土民は埃及の統轄を好まない。而して英國の統轄以來奴隸賣買は禁絶され産業大に開發し住民の安寧幸福を非常に増進した。今後も此住民を保護誘掖する事は英國の責務である。若し夫れ埃及の憂ふるナイルの水量の如き今後其減少によつて埃及に害を與へざるべきは英國の保證し得る處である。要之將來埃及とスダンの關係は單に殖産工業の利害を共にする善隣の友邦であらねばならぬと云ふのである。

而して千九百二十四年英埃間の協商不調に歸し、埃及首相ザグルール歸國するや、其統率する國民黨の運動愈激烈を加へ、同年十一月カイロに於てスダン總督スタック少將の暗殺

事件を生じ、其結果英國の最後通牒となり、ゲジラ灌漑地無制限擴張の要求竝にスダン駐屯埃及兵の強制撤退を見るに至つた。スダン所屬問題に對する英埃兩國の主張は略上記の如く、今後兩國協調上の大難關は實に茲にあるものと云はれてゐる。

埃及見物終

683
63



大正十四年五月二十八日印刷
大正十四年五月二十日發行
昭和四年十二月五日再版發行
昭和四年八月二十八日三版發行
昭和十年八月三十一日三版發行

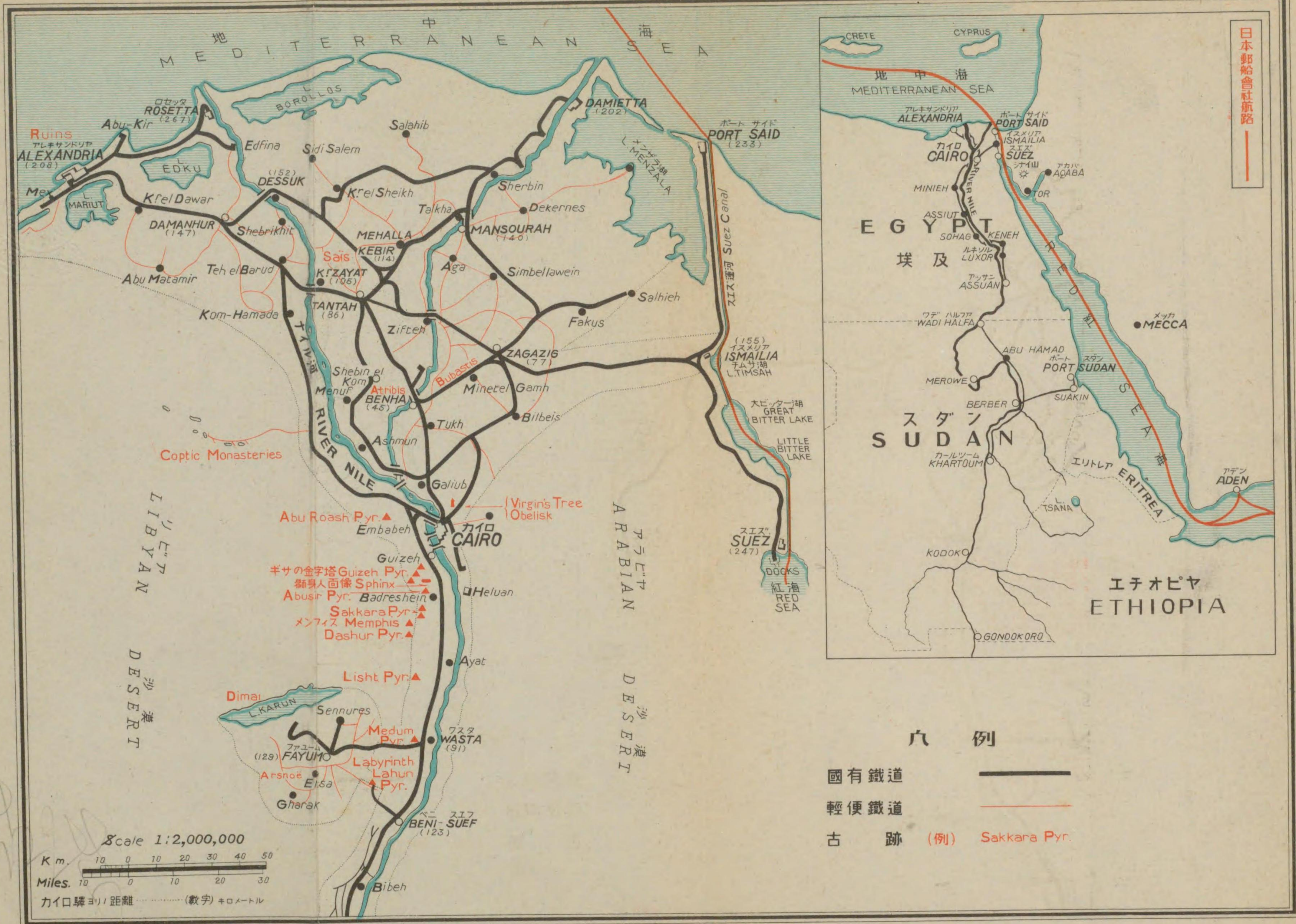
複製 不許

日本郵船株式會社

(非賣品)

印刷者 東京市京橋區銀座四丁目四番地 北川武之輔
印刷所 東京市京橋區銀座四丁目四番地 株式會社細川活版所

カイロ附近略圖



日本郵船會社航路

凡例

- 國有鐵道 —————
- 輕便鐵道 —————
- 古跡 (例) Sakkara Pyr.

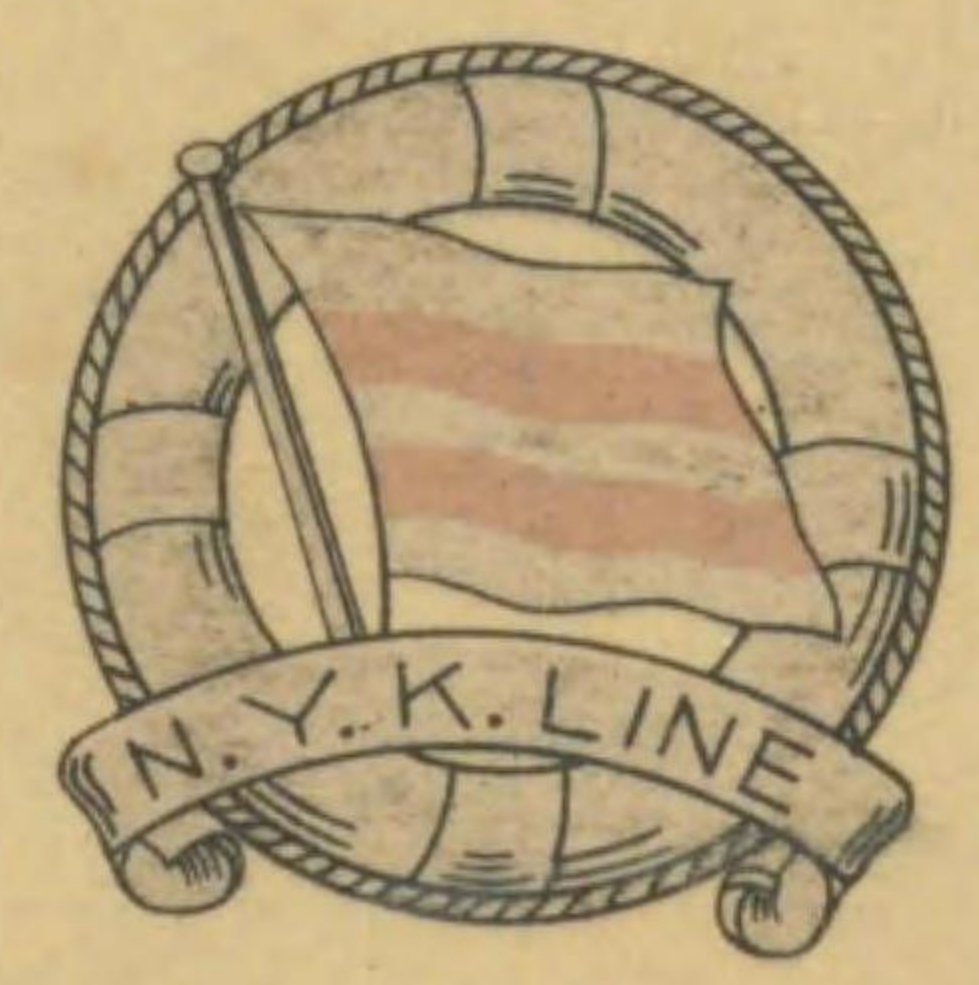
印刷所 東京市京橋區銀座四丁目四番地 株式會社細川活版所

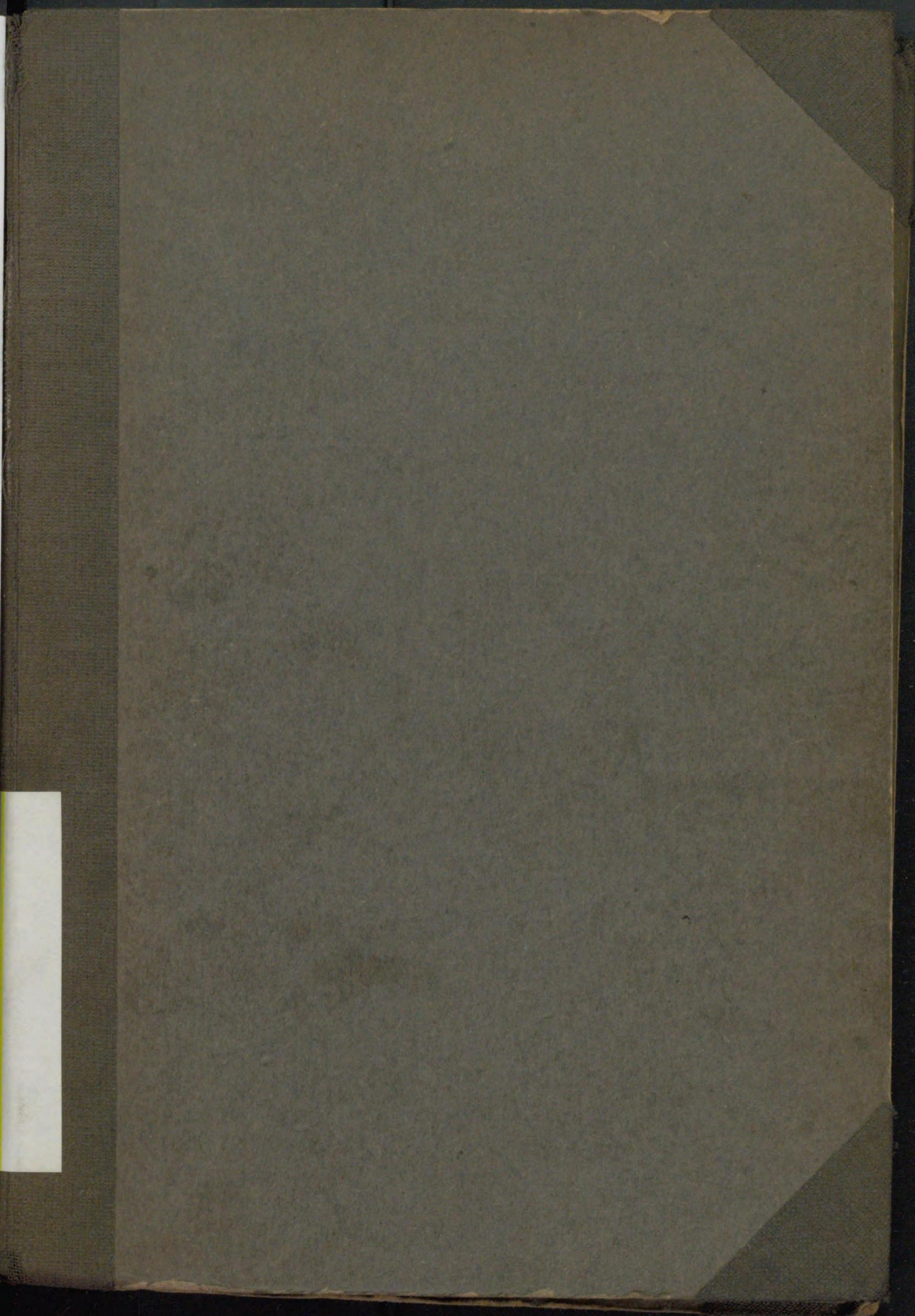
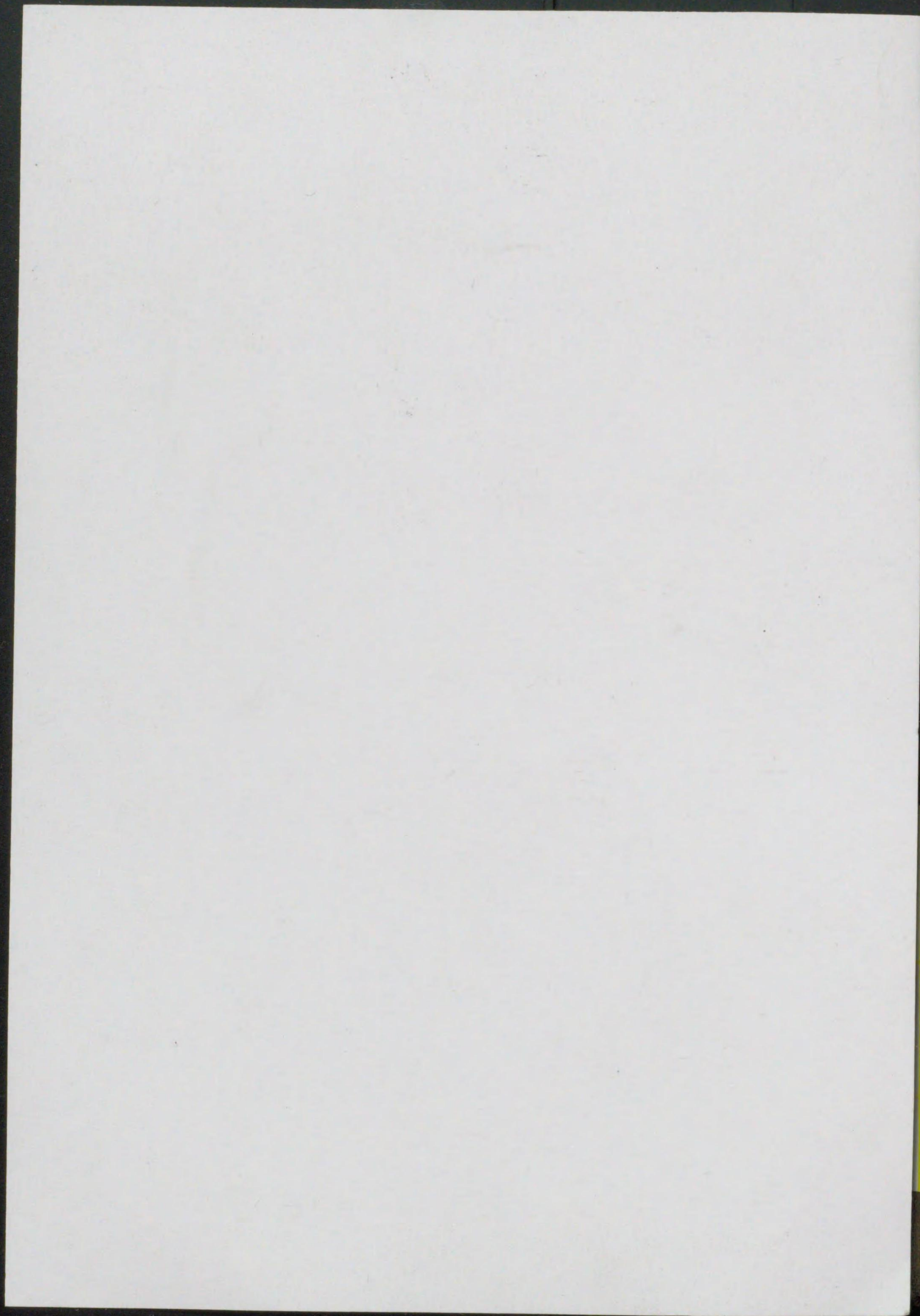
683
63

683
63

683
63

埃及及見物



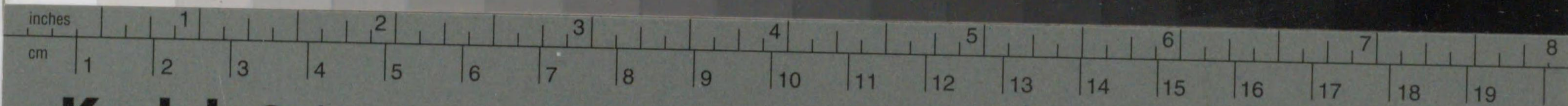


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

